

令和 7 年度春期情報処理技術者試験 分析と講評・午前問題の出題分野と難易度

2025.5.13 (株)アイテック IT 人材教育研究部

応用情報技術者 (AP)				
	応募者数	受験者数	合格者数	合格率 (%)
R5 年度春期	49,498	32,340	8,805	27.2
R5 年度秋期	56,073	37,763	8,753	23.2
R6 年度春期	55,569	36,730	8,677	23.6
R6 年度秋期	65,667	44,243	12,613	28.5
R7 年度春期	58,206			
増減 (対前回)	−7,461			

情報処理安全確保支援士 (SC)				
	応募者数	受験者数	合格者数	合格率 (%)
R5 年度春期	17,265	12,146	2,394	19.7
R5 年度秋期	20,432	14,964	3,284	21.9
R6 年度春期	19,565	14,342	2,769	19.3
R6 年度秋期	24,032	17,324	2,615	15.1
R7 年度春期	22,645			
増減 (対前回)	−1,387			

ネットワークスペシャリスト (NW)				
	応募者数	受験者数	合格者数	合格率 (%)
R5 年度春期	15,239	10,395	1,482	14.3
R6 年度春期	16,085	11,089	1,704	15.4
R7 年度春期	17,297			
増減	+1,212			

IT ストラテジスト (ST)				
	応募者数	受験者数	合格者数	合格率 (%)
R5 年度春期	7,040	4,972	769	15.5
R6 年度春期	7,486	5,327	842	15.8
R7 年度春期	7,889			
増減	+403			

システムアーキテクト (SA)				
	応募者数	受験者数	合格者数	合格率 (%)
R5 年度春期	5,684	3,679	581	15.8
R6 年度春期	5,696	3,666	549	15.0
R7 年度春期	6,021			
増減	+325			

IT サービスマネージャ (SM)				
	応募者数	受験者数	合格者数	合格率 (%)
R5 年度春期	2,886	1,936	294	15.2
R6 年度春期	2,879	2,000	300	15.0
R7 年度春期	2,898			
増減	+19			

★巻末の午前問題分析資料の見方

- 各問題のタイトル、解答、分野、難易度を示しています。
- 共通キャリア・スキルフレームワークの分野・分類番号を使用しています。
- 難易度は IPA 発表の技術レベル (1~4) で示しています。

基本情報技術者(FE)				
	応募者数	受験者数	合格者数	合格率(%)
R4 年度	117,624	101,620	38,033	37.4
R5 年度	140,774	121,611	57,278	47.1
R5 年度 4 月	11,294	10,513	5,928	56.4
5 月	10,933	9,724	5,322	54.7
6 月	10,557	9,141	4,802	52.5
7 月	10,980	9,506	4,712	49.6
8 月	9,225	7,812	3,779	48.4
9 月	11,322	9,523	4,542	47.7
10 月	14,259	12,361	5,235	42.4
11 月	11,750	9,974	4,472	44.8
12 月	12,589	10,919	4,556	41.7
1 月	10,026	8,526	3,737	43.8
2 月	11,383	9,801	4,390	44.8
3 月	16,456	13,811	5,803	42.0
R6 年度	157,259	133,732	54,501	40.8
R6 年度 4 月	12,256	10,394	4,235	40.7
5 月	10,802	9,132	4,137	45.3
6 月	12,216	10,435	4,467	42.8
7 月	11,005	9,296	3,877	41.7
8 月	11,853	9,950	4,379	44.0
9 月	13,626	11,570	4,788	41.4
10 月	14,609	12,716	4,990	39.2
11 月	12,299	10,520	4,332	41.2
12 月	13,242	11,171	4,389	39.3
1 月	10,779	8,978	3,588	40.0
2 月	13,888	11,869	4,641	39.1
3 月	20,684	17,701	6,678	37.7

情報セキュリティマネジメント(SG)				
	応募者数	受験者数	合格者数	合格率(%)
R4 年度	31,322	28,551	16,051	56.2
R5 年度	39,824	36,362	26,398	72.6
R5 年度 4 月	2,941	2,770	2,111	76.2
5 月	2,662	2,438	1,906	78.2
6 月	2,478	2,279	1,651	72.4
7 月	3,025	2,782	2,038	73.3
8 月	2,843	2,601	1,963	75.5
9 月	3,709	3,353	2,434	72.6
10 月	3,115	2,777	1,939	69.8
11 月	2,900	2,595	1,914	73.8
12 月	3,831	3,527	2,493	70.7
1 月	3,219	2,934	2,157	73.5
2 月	3,854	3,580	2,578	72.0
3 月	5,247	4,726	3,214	68.0
R6 年度	45,481	41,657	28,731	69.0
R6 年度 4 月	3,030	2,698	1,930	71.5
5 月	2,571	2,310	1,769	76.6
6 月	3,069	2,814	2,123	75.4
7 月	2,934	2,682	1,845	68.8
8 月	3,601	3,277	2,263	69.1
9 月	4,769	4,431	2,903	65.5
10 月	3,654	3,335	2,144	64.3
11 月	3,092	2,837	1,973	69.5
12 月	4,234	3,879	2,576	66.4
1 月	3,668	3,366	2,321	69.0
2 月	4,611	4,271	3,003	70.3
3 月	6,248	5,757	3,881	67.4

令和 7 年度春期

応用情報技術者試験分析と講評

■試験全体について

応用情報技術者試験は、対象者像を「IT を活用したサービス、製品、システム及びソフトウェアを作る人材に必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立した者」とする試験で、受験者の多くは高度 IT 人材像の前段階にある人です。名称には“情報技術者”が含まれますが、情報システムの開発に従事している情報技術者だけではなく、経営や企画などの業務を通して情報システムとの関わりをもつ人も含めた、幅広い人材を対象とした試験です。

平成 21 年度からスタートし、今回で 32 回目の試験実施になります。応募者数は、当初は 60,000 人台が続いていましたが、その後、徐々に減少し、平成 28 年度春期には 44,102 人にまで減りました。しかし、少しずつ応募者数は回復し、令和 3 年度までは春期、秋期の平均 50,000 人前後、令和 4 年度、5 年度は春期が約 50,000 人、秋期は約 55,000 人前後でした。そして、令和 6 年度の春期は 55,000 人を超え、秋期では、さらに大幅に増え 65,667 人になり、今回の令和 7 年度春期試験は、前回の春期試験より約 3,000 人増えて 58,206 人でした。一方、合格率については、この試験が開始されて以来ほぼ 20% 台前半で推移してきました。その間、令和 4 年度秋期が 26.2%、令和 5 年度春期が 27.2% とやや高いこともありましたが、前回の令和 6 年度秋期は、さらに高い 28.5% でした。

直近 10 回の応募者数、受験者数、合格者数の推移は、次のとおりです。

年度	応募者数	受験者数(受験率)	合格者数 (合格率)
令和 2 年度	42,393	29,024 (68.5%)	6,807 (23.5%)
令和 3 年度春	41,415	26,185 (63.2%)	6,287 (24.0%)
令和 3 年度秋	48,270	33,513 (69.4%)	7,719 (23.0%)
令和 4 年度春	49,171	32,189 (65.5%)	7,827 (24.3%)
令和 4 年度秋	54,673	36,329 (66.4%)	9,516 (26.2%)
令和 5 年度春	49,498	32,340 (65.3%)	8,805 (27.2%)
令和 5 年度秋	56,073	37,763 (67.3%)	8,753 (23.2%)
令和 6 年度春	55,569	36,730 (66.1%)	8,677 (23.6%)
令和 6 年度秋	65,667	44,243 (67.4%)	12,613 (28.5%)
平成 7 年度春	58,206	?	?

午前試験には、四肢択一の問題が 80 問出題されますが、出題範囲の各分野からの出題数は、テクノロジー系 50 問、マネジメント系 10 問、ストラテジ系 20 問が標準になっています。また、各中分類からほぼ均等に出題されることが基本ですが、出題が強化されている情報セキュリティ分野の問題は例年どおり 10 問出題されました。

分野	大分類	R7 春	分野別出題数	R6 秋
テクノロジー系	基礎理論	7	50	7
	コンピュータシステム	14		17
	技術要素	23		22
	開発技術	6		4
マネジメント系	プロジェクトマネジメント	4	10	4
	サービスマネジメント	6		6
ストラテジ系	システム戦略	6	20	6
	経営戦略	6		7
	企業と法務	8		7
合計		80	80	80

最近の試験では、新傾向問題といえる新しいテーマの問題、それ以外の新作問題がそれぞれ 15 問前後という出題が続いてきましたが、今回の試験では、新傾向の問題が例年より 10 問多い 25 問（他種別の既出問題 4 問含む）、既出のテーマについての新作問題は前回より 7 問少ない 8 問出題されました。過去問題やその改題については、応用情報技術者試験の問題が前回より 8 問多い 33 問、他の種別の問題が前回の半分の 14 問という構成でした。他の種別の過去問題としては、IT ストラテジスト (ST) から 4 問、データベーススペシャリスト (DB)、プロジェクトマネージャ (PM)、システムアーキテクト (SA)、システム監査技術者 (AU) から各 2 問、エンベデッドシステムスペシャリスト (ES)、情報処理安全確保支援士 (SC) から各 1 問出題されました。また、過去 3 年間の応用情報技術者試験の問題としては、令和 5 年度は春期から 2 問、秋期から 3 問、4 年度は春期から 2 問、秋期から 3 問、3 年度は春期が 3 問出題されました。その他に、令和 2 年度は 5 問、平成 31 年度春期が 2 問、30 年度秋期が 3 問、25 年度秋期が 3 問、その他は、各期から 1 問ずつ合計で 7 問出題されています。

問題の難易度については、例年、10 問程度出題されている基本情報技術者試験の過去問題が出題されなかったことに象徴されています。高度試験の午前Ⅱレベルのやや難しい問題が前回から 5 問増えて 18 問出題され、基本情報技術者試験レベルのやや易しい問題が前回の半分の 12 問に減りました。平成

21年にこの試験が開始されて以来、最も難しい午前試験であったと考えます。例年の講評では、受検者の学習状況によって、感じた難易度は異なると思いますが、今回の試験では、ほぼ全ての受験者が難しいと感じたのではないかと思います。

午後試験の問題については、必須問題である問1の情報セキュリティ分野の問題と、選択問題である問2～11の10問から4問を選択し、合計5問の問題に解答します。そして、選択した問題がそれぞれ20点満点で採点され、100点満点中60点以上が合格の条件です。難易度については、合格のための一つの目安である7割程度の得点を目指すという観点で考えると、標準的であったと考えます。

■午前試験の講評

午前試験に出題された新傾向問題は、前述のとおり25問でしたが、具体的な内容は次のとおりです。内訳は、テクノロジー系が17問、マネジメント系が1問、ストラテジ系が7問です。

問	テーマ
3	機械学習の過程で過学習と疑われたときの解消方法
6	2分探索木に二つの要素を順に追加したAVL木
12	稼働率、MTBF、MTTRで成り立つ関係式
17	APIの定義・開発を支援する機能を提供するOSS
21	間欠動作の平均電流を1μA以下にするための待機時間
24	柔軟なデータ格納を実現しているデータモデル
27	同じ値のコードをもつ表の行を自動的に削除するSQL文
30	MTUが設定されたIPv4でパケットに含まれるデータ量
31	宛先IPアドレスを受信したとき選択されるネクストホップ
34	MIME Base64でエンコードしたときのデータ量
35	CRYPTREC暗号リストの説明
36	HTTPリクエストヘッダーから推測できる脆弱性
39	セキュリティクリアランスの事例
41	cookieにSecure属性を設定したときの動作
44	ストレッチングに該当するパスワードクラックの対策
46	切替に伴うシステムのダウンタイムや切り戻す時間を短縮する手法
49	カオスエンジニアリングの五つの原則
54	品質管理基準に照らして行うべき活動
61	DX認定制度における認定基準に含まれている事項
65	企画プロセスにおけるビジネス分析の達成目標

69	カーシェアビジネスのビジネスモデルキャンバス
71	エッジAIにおいてエッジデバイスで行われる推論処理
73	コンピテンシーモデルの説明
74	需要予測のもととなる時系列モデルに関する記述
78	生成AIを利用した画像生成と利用の著作権侵害について

前回と今回の午前試験について、中分類ごとに出題数を集計すると次のようになりますが、大きな変化はありません。

分野	大分類	中分類	R7春 出題数		分野別 出題数	R6秋 出題数	
テクノロジー系	基礎理論	基礎理論	7	4	50	7	4
		アルゴリズムとプログラミング		3			3
	コンピュータシステム	コンピュータ構成要素	14	2		17	4
		システム構成要素		4			4
		ソフトウェア		4			5
		ハードウェア		4			4
	技術要素	ユーザーインタフェース	23	1		22	1
		情報メディア		1			1
		データベース		5			5
		ネットワーク		6			5
		セキュリティ		10			10
	開発技術	システム開発技術	6	3		4	2
		ソフトウェア開発管理技術		3			2
マネジメント系	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント	4	4	10	4	4
	サービスマネジメント	サービスマネジメント	6	3		6	3
		システム監査		3			3
ストラテジ系	システム戦略	システム戦略	6	3	20	6	4
		システム企画		3			2
	経営戦略	経営戦略マネジメント	6	3		7	3
		技術戦略マネジメント		0			1
		ビジネスインダストリ		3			3
	企業と法務	企業活動	8	5		7	4
		法務		3			3
	合計		80		80	80	

■午後試験の講評

最近の午後試験の傾向として、問題文の量が多くなってきたことが挙げられます。以前は、4 ページの問題が標準でしたが、最近では 5 ページの問題が標準になりつつあります。今回の試験では、4 ページの問題が 2 問、5 ページの問題が 7 問、6 ページの問題が 2 問という構成でした。また、最近の試験では、以前は多かった 40 字以内というような文字数の多い記述を求める設問が減り、20 字程度の記述を求める設問が多くなっています。なお、それぞれの問題のテーマは次のとおりです。

問	出題分野	テーマ	分類	選択
1	情報セキュリティ	サイバー攻撃への対策	T	必須
2	経営戦略	企業の成長戦略	S	10 問中 4 問選択
3	プログラミング	スライドパズルを解くプログラム	T	
4	システムアーキテクチャ	ビルエネルギーマネジメントシステムの非機能要件	T	
5	ネットワーク	社内 LAN の障害対応	T	
6	データベース	販売管理システムの構築	T	
7	組込みシステム開発	電動キックボードのシェアリングシステム	T	
8	情報システム開発	エラーハンドリング	T	
9	プロジェクトマネジメント	CCPM (Critical Chain Project Management) を用いたプロジェクトのスケジュール管理	M	
10	サービスマネジメント	容量・能力管理	M	
11	システム監査	勤務管理に関連するシステムの監査	M	

※ 分類 S：ストラテジ系，T：テクノロジー系，M：マネジメント系

(問 1 必須問題)

問 1 サイバー攻撃への対策 (情報セキュリティ)

中古車販売を行う中堅企業におけるサイバー攻撃への対策を題材に、セキュリティインシデントの調査方法、不正ログインを行う攻撃とその対策、ランサムウェアによる攻撃の被害内容と対策などについて問われました。リバースブルートフォース攻撃とイミュータブルバックアップについては、午前試験を含めて初出でしたが、その他は基本的な内容ばかりでした。また、一時期は、選択問題が中心でしたが、最近では、記述式の設問が中心になっています。全体としては、例年並みの難易度の問題と考えます。

(問 2～11 から 4 問選択)

問 2 企業の成長戦略 (経営戦略)

映像、X 線フィルム事業を展開していた大手企業の成長戦略を題材に、成長マトリクス、SWOT 分析とクロス SWOT 分析、アンゾフによる四つの多角化戦略について問われました。題材が TV の CM で馴染みのある有名企業と思われ、事業内容などを知っている人も多く、取り組みやすかったと思います。クロス SWOT 分析とアンゾフの四つの多角化戦略については初出で、知識が必要な設問もありましたが、その他は、問題文をよく読めば解答できる内容でした。全体的な難易度としては、標準的であったと考えます。

問 3 スライドパズルを解くプログラム (プログラミング)

盤面上のマスに配置されている駒を 1 マスずつ移動させながら、全ての駒を正しい位置に配置するスライドパズルを解くプログラムを題材として、具体的な盤面の状態に対応する配列の値、プログラム中の空欄について問われました。プログラムはオブジェクト指向風言語で記述されていましたが、クラス Queue の目的さえ理解できれば、アルゴリズム自体は比較的容易なものでした。ただし、問題が 6 ページと長く、多くのクラスや関数が説明されていて、これらを読んで理解するためには時間が必要であったと思います。問われた内容は比較的容易でしたが、問題の内容を理解するために必要な時間を考慮すると、難易度としてはやや難しいと考えます。

問 4 ビルエネルギーマネジメントシステムの非機能要件 (システムアーキテクチャ)

オフィスビル向けにサービスを提供するビルエネルギーマネジメントシステムを題材に、非機能要件グレード、システム構成、信頼性手法、稼働率、IaaS の利用料金計算と保証範囲といった幅広い内容が問われました。ほとんどが名称などの知識を問う内容でしたが、いずれも午前試験レベルの基本的なものでした。IaaS の料金計算についても比較的容易なもので、全体としての難易度はやや易しいと考えます。

問 5 社内 LAN の障害対応 (ネットワーク)

50 名規模の企業の社内 LAN を題材に、プリンタでの印刷障害の原因、サブネット、認証プロトコル、DNS サーバを診断するコマンド名、DNS サーバの障害対策、ネットワーク負荷検知のための SNMP プロトコルの利用方法など、社内 LAN で発生する可能性のある複数の障害に対する調査方法や対策について問われました。全体的な難易度としては、やや易しいと考えます。

問 6 販売管理システムの構築（データベース）

全国の店舗とインターネットで釣り具販売を行う企業の販売管理システムの構築を題材に、定番の E-R 図と SQL、追加した表の問題点とそのための変更点について問われました。SQL 文は二つ出題されましたが、一つは通常よりも長く、空欄の位置も通常とは異なるものだったので、難しく感じたかも知れませんが、冷静に構文を解析すれば理解できたと思います。その他の設問は、標準的なもので、全体的な難易度としては、標準的であったと考えます。

問 7 電動キックボードのシェアリングシステム（組込みシステム開発）

電動キックボードのシェアリングシステムを題材に、電動キックボードの状態遷移、電動キックボード制御部のタスクの動作や、タスク間の通知、電動キックボードのアプリと管理サーバの処理時間などが問われました。いずれも問題文をよく読めば解答できる内容で、特にハードウェアなどの知識は求められませんでした。全体的な難易度としては、この分野の問題として標準的であったと考えます。

問 8 エラーハンドリング（情報システム開発）

複数の店舗を運営するスーパーマーケットの CRM システムの開発と運用を題材に、オブジェクト指向のクラス、エラーメッセージやログの参照者、エラー検出のための CRM の監視対象、アスペクト指向プログラミングのルール定義について問われました。アスペクト指向プログラミングというのが難しそうに感じたかも知れませんが、問題を解くために必要なことは、問題文に記述されていました。その他の設問も、問題をよく読めば解答できる内容で、全体的な難易度としては、やや易しいと考えます。

問 9 CCPM (Critical Chain Project Management) を用いたプロジェクトのスケジュール管理（プロジェクトマネジメント）

中堅企業の販売管理の新システムの構築を題材に、加重総和法による発注先の選定、クリティカルチェーン法によるスケジュール管理のメリット、アクティビティの進捗遅延発生時のプロジェクトの遅延日数の算出、アクティビティの遅延に対する対策について問われました。クリティカルチェーン法については、令和 5 年度春の午前問題に出題されているので、この問題で問われたバッファの名称は知っている人も少なくなかったと思います。多くの設問は、問題文をよく読めば解答できましたが、プロジェクトの遅延日数の

計算は、考慮しなくてはいけない事項が多い面倒なもので、難しかったと思います。その他にも計算問題が 2 問あり、全体的な難易度はやや難しかったと考えます。

問 10 容量・能力管理（サービスマネジメント）

製造業を営む企業の生産管理システムと販売管理システムの運用を題材に、インシデント発生時の対応、インシデント発生を検知するために監視するイベント、キャパシティ不足解消のために移行するクラウドで利用すべき機能とそのときの注意点などについて問われました。容量や能力などの計算問題はなく、いずれも記述式の問題で、問題文を読めば解答できる内容でしたが、記述文字数が多かったため、全体的な難易度としてやや難しいと考えます。

問 11 勤務管理に関連するシステムの監査（システム監査）

従業員 3,000 人規模の企業の勤務管理システムを題材に、手作業に対する対策の監査、テレワーク導入による追加機能の監査、過去に発生したシステム障害に対する対策の監査手続について問われました。設問は全て記述式でしたが、いずれも 5～15 字という短いもので、問題文をよく読めば解答できるものでした。他の分野の問題と比べるとやや易しい内容でしたが、この分野の問題としては、標準的な難易度であったと考えます。

■ 次回の試験に向けて

(1) 午前試験

新作問題が毎回出題されますし、表現を調整して選択肢の順番を変えるような改題も増えていますから、正解の暗記だけでは午前試験をクリアすることは難しいでしょう。シラバスに沿ったテキストや専門書などを利用して試験範囲を一通り学習し、その後、問題演習を行って試験に備えるという一般的な学習スタイルが理想ですが、そのような時間が取れないという方も多いのではないのでしょうか。そのような方には、過去問題を教材とした学習が効果的です。試験に合格するという目的だけからすると、試験範囲で重要なところは、試験問題としてよく出題されるところだからです。また、広い試験範囲の内容を漫然と学習するのではなく、問題から学習範囲を絞り込むことによって、集中して学習することができます。ただし、過去問題に取り組んで正解すれば終わりということではなく、正解以外の選択肢が誤りである理由や、各選択肢の用語の意味まで調べて知識として身に付けるようにしなければなりません。このとき、年度別に過去問題に取り組むのではなく、分野

別にまとめて取り組み、問題を教材として関連知識まで学習すると効果的です。そうすることで、過去に出題されたことのあるテーマの新作問題にも対応可能になります。また、新傾向問題の半数以上は、正解以外の選択肢が、既出問題で問われた用語や記述になっています。既出問題に正解できる知識があれば、消去法によって正解を導くこともできるようになります。なお、弊社ではこうした学習のための教材として、分野別に学習効果の高い過去問題を選び、知識を体系的に整理できるよう配慮した「高度午前Ⅰ・応用情報 午前試験対策書」という書籍を用意しておりますので、ぜひご活用ください。

ただし、このような学習方法は、基本情報技術者試験の午前試験合格レベルの知識を体系的に学習済みであることが前提です。基本情報技術者試験のCBT化以降、情報処理技術者試験の受験経験のない方が、いきなり応用情報技術者試験にチャレンジするということが増えているようですが、学習の基礎となる基本情報技術者試験レベルの体系的な知識がないと、午前試験の問題は何とか正解できるようになっても、午後試験向けの学習でつまづくことになります。午前試験の学習が一通り終わったと思っても、午後試験の問題の演習で知識が不足していると感じている方は、まず、不足している知識を充足することが合格への近道です。基本情報技術者試験レベルの知識が不足していると感じた方は、面倒でも基本情報技術者試験向けのテキストを読んで、基礎力を養ってください。目的は、基礎力を付けることです。テキストは最新のものでなくても良いですし、詳細を網羅したものでなくても良いので、読みやすいものを選びましょう。また、この試験の出題範囲は広く、学習のためにはかなりの時間を必要とします。得意な分野と不得意な分野を交互に学習するなど、学習意欲が継続するよう工夫をしましょう。

2023年の12月にシラバスの比較的大きな改定がありました(Ver.7.0)。今回の試験では、この改定で新たに加わった内容も出題されましたので、最新のシラバス(Ver.7.1)には目を通しておきましょう。

(2) 午後試験

選択する分野にかかわらず、問題発見能力、抽象化能力、問題解決能力などが、“知識の応用力”として問われます。具体的には、問題文に記述されている事例や、技術や概念の説明などに対する設問について、自分の能力と知識を応用して解答する力が試されます。合格のために必要となる“知識の応用力”を身に付ける学習のためには、まず、過去に出題された問題を知ることが大切です。特に、記述式の設問に対しては、解答が安易すぎたり、難しく考えすぎたりしないように、解答の適切なレベルとはどの程度なのかを正

しく理解してください。IPAのホームページには、過去に出題された問題と解答例が掲載されています。これらを活用して、まず、試験問題を知ること心掛けてください。

午後試験では、時間が足りないという感想を多く聞きます。制限時間を決めて、過去問題に挑み、時間内で解答できるようにするための問題文の読み方、ヒントや解答の根拠の見だし方を身に付けるようにしましょう。IPAから発表されている解答例を見ると、制限字数を超えない限り、それほど字数にこだわる必要はないように思われます。また、表現などについても、あまり神経質になる必要はありません。解答のポイントとなるキーワードが記述されていれば、正解になる可能性が高いため、自分が考えついた解答内容を短時間で正しく記述できるように練習しておきましょう。

午後試験では国語力が重要になりますが、それだけでは合格することはできません。その前提として、午前試験レベルの内容に対する正しい理解が必要になります。いくら午後試験の問題演習を繰り返しても、午前試験レベルの正しい理解がないと、解答のポイントを見いだせるようになりません。また、問題文も一定の知識を有していることを前提に記述されているので、正しく読み取ることはできません。こうしたことから、午前試験に向けた学習は、午前試験をクリアするためだけではなく、午後試験をクリアするためにも重要になります。

午前試験の学習を一通り行ってから、午後試験の学習に移る方が多いと思います。午後試験の問題の学習に移っても、問題中に不安なところがあれば、関連する午前試験の問題を利用して知識を確実なものにするようにします。また、毎日、10問程度の午前試験の問題に取り組み、知識を維持、定着させるようにすると良いでしょう。午後試験向けの学習が進まない原因のほとんどが、午前試験レベルの知識に対する理解不足です。午後試験の学習が進まないと感じたら、その分野を午前試験レベルから復習するようにしましょう。

実際の試験では、馴染みのないテーマ、形式の問題が出題されると、混乱してしまって必要以上に難しく感じてしまいがちです。このような混乱を避けるためには、選択する4分野の他に2分野程度の問題に対処できるように学習しておく必要があります。また、止むを得ず馴染みのないテーマの問題を選択せざるを得ないときには、6割程度の得点を目指し気楽に取り組むと良いでしょう。この試験の問題は、知識がなくても問題文をよく読めば正解できる設問が多く含まれています。そうした設問で確実に得点できるように、落ち着いて取り組めるようにしておきましょう。そのためには、自分が十分に学習したという自信が大切です。

以上

令和7年度 春期

午前 I 共通問題(SC, NW, ST, SA, SM)試験分析と講評

■午前 I 試験(高度試験共通)講評

共通知識として幅広い出題範囲の全分野から 30 問が出題される試験です。今回の分野別出題数はテクノロジー分野が 17 問、マネジメント分野が 5 問、ストラテジ分野が 8 問でこれまでと同じでした。出題された問題は、従来どおり全て同時期に実施された応用情報技術者試験(以下、AP 試験)の午前問題 80 問から選択されています。重点分野のセキュリティからの出題が 4 問と最も多く、今回、ユーザーインタフェースと技術戦略マネジメント分野からの出題はありませんでした。

新しい内容の新傾向といえる問題は次の 8 問(前回 3 問)で、かなり増えています。選択元の AP 試験で増えていることによるものといえます。

- 問 2 機械学習の過程で過学習と疑われたときの解消方法
- 問 5 稼働率, MTBF, MTTR で成り立つ関係式
- 問 7 間欠動作の平均電流を $1\mu A$ 以下にするための待機時間
- 問 10 同じ値のコードをもつ表の行を自動的に削除する SQL 文
- 問 12 CRYPTREC 暗号リストの説明(ST 既出問題, AP では初)
- 問 23 DX 認定制度における認定基準に含まれている事項
- 問 27 エッジ AI においてエッジデバイスで行われる推論処理
- 問 30 生成 AI を利用した画像生成と利用の著作権侵害について

これまで繰り返し出題されている定番といえる問題は 14 問程度で、前回の 16 問から少し減っています。なお、やや難しいと考えた問題は 6 問(問 5, 7, 12, 18, 24, 25)で、前回の 2 問から増えています。

問題の出題形式は、文章の正誤問題が 14 問(前回 18 問)、用語問題が 5 問(前回 5 問)、計算問題が 4 問(前回 4 問)、考察問題が 7 問(前回 3 問)で、考察問題が増え、文章問題が減っています。これらのことから、全体として少し難しいと感じた受験者が多かったと思われます。

(今回の分野別出題内容) ☐ は新傾向問題, ☐ は既出の定番問題

- テクノロジー分野……近似値, ☐ 機械学習の過学習, ☐ スタック, ☐ CPU 処理時間, ☐ 稼働率の関係, ☐ LRU 方式, ☐ 待機時間, ☐ SVG 画像, ☐ 正規形の変換, ☐ SQL (CASCADE), ☐ PoE, ☐ CRYPTREC 暗号リスト, ☐ SBOM, ☐ OS コマンドインジェクション, ☐ プロトコルの関係, ☐ デザインレビュー, ☐ スプリントレビュー

- マネジメント分野……EVM によるプロジェクト評価, ☐ クラッシング, ☐ サービス停止時間, ☐ 監査のウォークスルー法, ☐ 監査手続
- ストラテジ分野……☐ DX 認定制度, ☐ クラウドを実現するプロビジョニング, ☐ 契約形態, ☐ PPM, ☐ エッジ AI の推論処理, ☐ AI を用いたマシンビジョン, ☐ 変動費の計算, ☐ 生成 AI 利用の著作権侵害

分野別の出題数は次のような結果で、従来と同じでした。

分野	大分類	分野別	R6年春	R6年秋	R7年春
テクノロジー系	基礎理論	17	3	3	3
	コンピュータシステム		4	5	4
	技術要素		8	8	8
	開発技術		2	1	2
マネジメント系	プロジェクトマネジメント	5	2	2	2
	サービスマネジメント		3	3	3
ストラテジ系	システム戦略	8	3	3	3
	経営戦略		3	3	3
	企業と法務		2	2	2
合計		30	30	30	30

これまで、出題される問題の約 7 割は、過去の基本情報技術者試験や AP 試験で出題された基本的な内容でしたが、今回は 5 割程度に減りました。高度試験で専門分野の力を発揮するのは午前 II の専門知識の試験からになりますが、午前 I 試験から受験する人は、過去の応用情報技術者試験の午前問題を解き、余裕をもって 7 割以上正解できるように、理解度を上げてください。

IPA の試験統計情報を分析すると、高度試験を午前 I から受けた人のうち、60 点以上取れた人は 5 割から 6 割台で推移していて、半数近くの人が次の午前 II 以降の採点に進んでいない状況です。高度共通の午前 I 試験では難しい内容も出題されますが、苦手な分野の学習は基本的な問題が多い基本情報技術者試験の内容から始め、基礎知識を確実に理解するようにしてください。

また、出題範囲が広いため、全体をまんべんなく学習するのにかなり時間がかかります。そのため、試験対策としては、これまで出題された出題内容のポイント事項を重点的に解説したアイテック刊行の「2025 高度午前 I ・応用情報 午前試験対策書」で効率よく学習することをお勧めします。

以上

令和 7 年度春期

情報処理安全確保支援士試験分析と講評

■試験全体講評

平成 29 年度春期に第 1 回の情報処理安全確保支援士（以下、支援士という）試験が開始されて以来、今回の試験で第 16 回（令和 7 年度春期）を迎えました。第 1 回は 25,130 名の応募者を集め、それ以降、回を追うごとに応募者が漸減する傾向にありましたが、令和 4 年度秋期から回復傾向が見られるようになりました。令和 7 年度春期の応募者数は 22,645 名に達し、令和 6 年度秋期に比較すると、5.8%減少しましたが、1 年前の令和 6 年度春期と比較すると、大きく増加しています。参考までに、令和 6 年度春期以降の応募者数などの推移を示すと、次のようになります。

年 度	応募者数	受験者数	合格者数
令和 6 年度春期	19,565 (−4.2%)	14,342 (73.3%)	2,769 (19.3%)
令和 6 年度秋期	24,032 (22.8%)	17,324 (72.1%)	2,615 (15.1%)
令和 7 年度春期	22,645 (−5.8%)	—	—

()内は、左から順に対前期比増減率、受験率、合格率を示す。

今日の社会においては、サイバー攻撃や標的型メール攻撃、マルウェア感染などに関する対策をはじめ、情報セキュリティの重要性は高くなる一方です。これらのセキュリティ問題全般について十分に理解していくには、Web システムをはじめ、クラウドサービスと認証連携、多要素認証技術、インシデント対応、電子メールや DNS の仕組みなどの基本的な知識を把握することが必要です。そして、支援士試験は、これまでの情報処理技術者試験という国家試験から、国家資格試験に格上げされました。資格取得後における講習受講義務が課せられるなどの条件がありますが、支援士試験に合格した上で、情報処理安全確保支援士（登録セキスベ）に登録すれば、社会的に認知された資格を有することができます。まずは支援士試験に合格し、登録セキスベの有資格者になっておくといよいでしょう。

午前 I（共通知識）試験は 30 問出題され、出題分野の内訳はテクノロジー分野が 17 問、マネジメント分野が 5 問、ストラテジ分野が 8 問で、これまでと同じです。問題の出題形式は、文章の正誤問題が 14 問（前回 18 問）、用語問

題が 5 問（前回 5 問）、計算問題が 4 問（前回 4 問）、考察問題が 7 問（前回 3 問）で、考察問題が増え、文章問題が減っています。また、少し難しかった問題としては、問 2（機械学習の過程で過学習と疑われたときの解消方法）、問 5（稼働率、MTBF、MTTR で成り立つ関係式）、問 7（間欠動作の平均電流を $1\mu\text{A}$ 以下にするための待機時間）など計 6 問もあり、全体として少し難しかった試験だったといえます。

午前 II（専門知識）試験の出題範囲は、技術要素のうち、セキュリティとネットワークが重点分野になっており、この 2 分野からの出題数は 20 問でこれまでと同じです。また、出題内容としては、情報セキュリティに関する個々の知識を問うものが大半を占めています。この 20 問のうち、新規問題の出題数は 6 問で、令和 6 年度秋期に比べると、1 問減少したこと、過去問題は、令和 5 年度秋期と令和 5 年度春期の 2 期に集中して 11 問出題されていたことなどから、難易度は、令和 6 年度秋期に比べると、易しくなったといえます。

午後試験の出題テーマは、サプライチェーンのリスク対策（問 1）、脆弱性管理（問 2）、スマートフォン用アプリケーションプログラムの開発（問 3）、IT 資産管理及び脆弱性管理（問 4）でした。問 1 は、サプライチェーンリスク対策のガイドラインを作成し、全てのシステム開発プロジェクト及び運用サービスの点検における諸問題を考えるものです。問 2 は、プラットフォーム診断と Web アプリ診断で指摘された脆弱性の問題が出題されていますが、CVSS 値と EPSS 値の評価に関する事項なども問われています。問 3 は、スマホアプリに関する脆弱性に関する問題で、サーバ証明書や TLS の通信シーケンスなども問われています。問 4 は、公開 IT 資産管理と脆弱性管理に関するもので、公開 IT 資産管理のリストアップについての調査方法及び対応方法の問題のほか、KEV カタログに掲載される脆弱性などの知識問題でした。難易度を全体的に評価すると、前回の令和 6 年度秋期試験とほぼ同程度と考えられます。

■午前 II（専門知識）試験講評

25 問のうち、分野別の出題数は、「技術要素」から 21 問、「開発技術」から 2 問、「サービスマネジメント」から 2 問という比率でした。この比率は、第 1 回の平成 29 年度春期試験以降、同じですから、今後も変更はないと考えられます。なお、25 問のうち、新規問題の出題数は 8 問で、前回の令和 6 年度秋期試験から 1 問増加しています。

午前 II 試験の分野別出題数の推移（3 期分）は、次のようになっています。

大分類	中分類	令和 6 年 春期	令和 6 年 秋期	令和 7 年 春期
技術要素	セキュリティ	17	17	17
	ネットワーク	3	3	3
	データベース	1	1	1
開発技術	システム開発技術	1	1	1
	ソフトウェア開発管理技術	1	1	1
サービス マネジメント	サービスマネジメント	1	1	1
	システム監査	1	1	1
合 計		25	25	25

(1) 技術要素

技術要素からの出題範囲は、セキュリティ、ネットワーク、データベースの 3 分野です。分野別の出題数は、セキュリティが 17 問、ネットワークが 3 問、データベースが 1 問でした。これからも分野別の出題数は、セキュリティが 17 問、ネットワークが 3 問、データベースが 1 問という割合には変化がないと考えられます。

セキュリティ分野の 17 問は、基本的に情報セキュリティ技術に関する問題です。新規問題は、問 1 (DRDoS 攻撃に該当するもの)、問 3 (SHA-512/256 の説明)、問 8 (サイバー攻撃におけるコネクトバックの説明)、問 12 (NIST の CSF 2.0 のコアにある機能)、問 13 (IoC (Indicator of Compromise) に該当するもの) の 5 問です。これに対し、過去問題からの出題は、令和 5 年度秋期から 5 問、令和 5 年度春期から 6 問のほか、令和 5 年度春期 AP 試験から 1 問の計 12 問です。なお、過去問題からの再出題については、これまでの複数の期にわたって出題されるというパターンではなく、令和 5 年度秋期試験と令和 5 年度春期試験の 2 期に集中していたことが特徴です。

ネットワーク分野の 3 問は、新規問題が 1 問で、過去問題は 2 問でした。新規問題は、問 20 (GET/POST メソッドを用いたリクエストメッセージ) ですが、HTTP メッセージの基本構成に関するものですから、レベル 3 の問題といえます。過去問題は、令和 3 年度秋期 SC 試験から 1 問、平成 27 年度秋期 SC 試験から 1 問ずつ出題されていました。いずれも基本的な問題といえます。

データベース分野の問 21 (SQL 文を実行して得られる結果) は、令和 4 年度秋期 DB 試験で出題されていました。SQL 文の NOT EXISTS 述語の知識が必要ですが、レベル 3 の問題に位置付けられます。

(2) 開発技術

開発技術からの出題範囲は、システム開発技術とソフトウェア開発管理技術の 2 分野です。システム開発技術分野の問 22 (ソースコードのソース品質を向上させる OSS のツール) は、新規問題です。OSS のツールの名称を知っているかどうかポイントですが、難易度はレベル 4 の問題と評価されます。ソフトウェア開発管理技術分野の問 23 (スクラムにおける KPT の三つの視点) は令和元年度秋期 SA 試験で出題されていましたが、レベル 3 の問題といえます。

(3) サーマネジメント

サービスマネジメントからの出題範囲は、サービスマネジメントとシステム監査の 2 分野です。問 24 (サービス可用性の計算) は令和 5 年度春期 SM 試験で出題されていました。基本的な計算問題ですから、レベル 3 に位置づけられます。問 25 (金融庁「内部統制・監査の実施基準」の IT の統制目標) は新規問題ですが、基本的な用語問題ですから、レベル 3 の問題といえます。

■午後試験講評

令和 7 年度春期試験は、令和 6 年度秋期試験の出題構成から少し変更され、Web アプリ関連の問題がやや少なくなり、脆弱性管理をテーマとした問題が多く見られました。また、令和 6 年度秋期試験では、字数指定のない設問が、ほとんどでしたが、令和 7 年度春期試験では、字数が指定された設問がかなり見られました。次回以降の支援士試験の記述式の設問で、字数指定のない設問が増加するかどうかは定かではありませんが、字数指定のない設問の答案作成にも慣れておきましょう。答案用紙の形式を見ると、マスありの場合、1 行は 20 マスで構成されていますので、マスなしの場合には、1 行当たり 20 ～25 字程度を目安にして答案を作成するとよいでしょう。

午後試験で合格基準点をクリアするためには、情報セキュリティ全般に関する知識を十分に身に付けた上で、問題文に記述された内容をよく読んで、本文や図、表に記述された条件などを丁寧に整理し、設問で問われていることを的確に把握した上で解答を作成していくことが基本です。こうした知識面だけではなく、問題に対する取り組み方も重要になってきます。過去に出題された、午後 I や午後 II を含む午後問題に取り組んで、解答作成のコツをつかむように訓練を重ねておくことも忘れないようにしましょう。

問 1 サプライチェーンのリスク対策

本問は、サプライチェーンのリスク対策というテーマですが、サプライチェーンリスク対策のセキュリティガイドラインを作成し、全てのシステム開発プロジェクト及び運用サービスの点検における諸問題を考えるものです。設問 1 では、セキュリティ・バイ・デザインの考え方や、再委託する場合に契約書に明記する事項が問われています。設問 2 は、過去のインシデントに基づいた事例の分析などの問題、設問 3 は、システムの開発プロジェクト及び運用サービスに対してガイドラインを用いた点検結果、設問 4 は SBOM を利用すると脆弱性管理がしやすくなる理由、設問 5 では、開発工程のどの時点で SAST ツールを使用する場合に効果が得られるかなどが問われています。基本的な事項が問われていますので、難易度はそれほど高くないと思われます。

問 2 脆弱性管理

本問は、脆弱性管理というテーマですが、プラットフォーム (PF) 診断と Web アプリ診断に関する問題が出題されています。設問 1 は、SQL インジェクションの応答結果、設問 2 は、診断結果が異なっていた要因を考えるものです。設問 3 は、鍵交換におけるビットセキュリティ基準、認証タイムアウトメッセージに基づき攻撃を早期に検知する方法、アクセス元の PC を認証する方法を答えるものです。設問 4 は、Web アプリ診断で検出された脆弱性について、深刻度レベルが低く評価された評価根拠と高く評価された評価根拠、管理者権限が必要な操作ができなかった仕様をサイト C の仕様の中から選ぶものです。設問 5、6 は、CVSSv3 の現状値は手間が掛かり EPSS 値では手間が掛からない理由、PF 診断と Web アプリ診断で検出された脆弱性に対する評価結果の対応優先度を決める問題などが出題されています。問題の難易度は、標準レベルと思われますが、小問数が多いことから、正解できるものについては、着実に点数を積み上げていくことが必要です。

問 3 スマートフォン用アプリケーションプログラムの開発

本問は、新規に開発したスマートフォン用アプリケーションプログラムの脆弱性診断結果に基づいて考える問題です。設問 1 では、サーバ証明書の検証不備がある場合、攻撃者がアクセスキーを取得する方法、アクセスキーの保護に不備がある場合、攻撃者がアクセスキーを取得する方法及び全利用者の写真をダウンロードする方法などが問われています。設問 2 は、サーバ証明書に記載される名前や、TLS の通信シーケンス、プライベート認証局を用

いた場合にスマホ側に必要となる設定内容などを答えるものです。設問 3 は、署名付き URL の生成時点、設問 4 は、フィッシングサイトにアクセスしても気付くことができないというスマホアプリの仕様上の問題点と、アクセスできないようにする機能を具体的に答えるものです。正解を導くためには、問題の条件を丁寧に確認することなどが求められますが、問題の難易度は、標準レベルといえます。

問 4 IT 資産管理及び脆弱性管理

本問は、IT 資産管理、ドメイン名などの管理、導入ソフトウェアの管理、脆弱性管理の改善などに関する問題です。設問 1 では、CDN サービスを解約したときに必要となる設定の変更内容が問われています。設問 2 は、公開 IT 資産管理及び脆弱性管理の目標設定に関するもので、未登録の公開 IT 資産の調査方法などに関する字句選択の穴埋め問題が出題されています。設問 3 は、IT 資産の調査漏れリストに挙げられた事項に対し、追加の調査方法や対応方法を考えるものです。設問 4 は、KEV カタログに掲載される条件や、導入ソフトウェアの管理及び脆弱性管理についての改善策などを答えるものになっています。一部、用語自体の意味を知らないと答えられない設問がありますが、全体的に難易度を評価すれば、標準レベルといえます。

■令和 7 年度秋期の試験に向けて

午前試験は、午前 I (共通知識) と午前 II (専門知識) という二つの試験が行われます。午前 I と午前 II を比較すると、午前 I の出題範囲が広範囲にわたることから、合格基準点をクリアすることが比較的難しいといえます。これに対し、午前 II は、過去問題からの出題が半数以上あること、専門知識に特化していることなどから、事前の準備さえ怠らなければ、比較的容易にクリアできると考えられます。

こうしたことから、午前 I 試験を受験する必要がある方は、午前 I の試験対策については手を抜くことはできません。出題分野は、テクノロジー系 (基礎理論、コンピュータシステム、技術要素、開発技術)、マネジメント系 (プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント)、ストラテジ系 (システム戦略、経営戦略、企業と法務) の全分野にわたるので、幅広い分野に加え、生成 AI などの新しい技術動向に関する知識も要求されます。日ごろから情報処理技術全般に関する知識を習得するとともに、関連する過去問題を多く解いておくようにしましょう。また、午前 I で出題される 30 問は、応用情報技術者試験で出題される問題の中から抽出されるようになっています。なお、

午前Ⅰの出題分野の全分野に関し時間を費やしていくことは、あまりお勧めできません。例えば、論理回路の問題などは、考え方を理解するのに少し時間がかかります。こうした問題に時間をかけても意味がありません。捨てる分野の問題を決めながら、効率的に学習していくとよいでしょう。

午前Ⅱ試験の出題数は 25 問、試験時間は 40 分です。出題の重点分野は、技術要素のうち、セキュリティとネットワークです。この他には、技術要素のデータベース、開発技術のうち、システム開発技術とソフトウェア開発管理技術、サービスマネジメントのうち、サービスマネジメントとシステム監査の分野からも出題されます。令和 7 年度春期試験の出題数は、技術要素が 21 問、開発技術とサービスマネジメントが、それぞれ 2 問ずつで、これまでの試験と同じです。なお、技術要素のうち、セキュリティとネットワークの出題数は、どちらの技術に分類しても差し支えない問題(例えば、TLS や IPsec, DNS, 電子メールのセキュリティなど)があるので、セキュリティが 17 問、ネットワークが 3 問という比率で定着していると考えて問題ありません。難易度についてはレベル 4 の問題も出題されますが、セキュリティとネットワークに関する午前Ⅱ試験の問題は、午後試験対策を十分に実施していけば、ほぼ全問正解できるレベルになってきます。したがって、午前Ⅱ試験は、特別な対策を実施する必要はなく、午後試験に必要な技術知識を十分に身に付けていくとよいでしょう。

午後試験は、令和 5 年度秋期試験から、午後Ⅰ試験と午後Ⅱ試験が統合され、一つの午後試験として実施されるようになり、試験時間は 150 分になりました。そして、出題数 4 問の中から 2 問を選択して解答します。

令和 7 年度春期の午後試験では、Web に関連するセキュリティ問題の比率が少なかったようですが、これまでの傾向から判断すると、Web アプリや WebAPI などのセキュリティに関連する問題が 2 問程度出題されることがあります。このため、IPA が公表している「安全なウェブサイトの作り方」、「セキュア・プログラミング講座」などをはじめ、様々な資料を事前に学習し、HTML コードのほか、HTTP のヘッダー情報やクッキー属性などを含め、十分に理解するとともに、できるだけ様々な分野に対するセキュリティ問題に幅広く対応できる能力を身に付けるようにしましょう。

午後試験の問題選択に当たっては、個々の受験者がもち合わせている技術知識などの差に依存しますので、できるだけ自身の得意とする分野の問題を選択していくことが基本です。なお、一度選択した問題については、最後までやり抜くようにすることが必要です。それは、問題文をよく読んでいけば、問題の中にヒントが記述されていることが多く、それらを手掛かりにして正

解を導いていくことが可能だからです。しかし、ヒントを見つけることができるかどうかについては、各自がもち合わせている知識が多いか少ないかなどの差によって決まります。そこで、試験を受験するに当たっては、できるだけ知識レベルを向上させておくことが必要です。

例えば、セキュリティ技術分野では、Web アプリケーションに対する様々な攻撃とその対策、迷惑メール対策や標的型攻撃、サイバー攻撃に関する対策、IoT 機器に関連するセキュリティ問題、クラウドサービスの利用と認証連携、電子証明書の検証方法、パスワードレス認証や多要素認証による利用者認証、メッセージ認証、デジタル署名、暗号化技術、セキュリティプロトコル、VPN 技術、ファイアウォールの設定、IDS や IPS など、多くの技術知識を吸収していくことが必要です。また、Web アプリケーションなどに対するセキュア・プログラミングの問題では、C/C++ や Java, ECMAScript (JavaScript) をはじめ、HTML などの知識が要求されます。

以上のほか、ネットワーク技術分野では、TCP/IP (HTTP, HTTPS, IPsec, TLS など)、インターネット利用・接続技術、DNS の仕組み、電子メールの配送の仕組みなど、データベース技術分野では、データベースへのアクセス権限、SQL 文の読み方、ログ管理など、幅広い技術知識を習得していくことが必要です。さらに、情報セキュリティポリシーやリスク分析などのマネジメント系の問題に加えて、新たな攻撃手法など最新のトピックも含めて出題対象になり得るので、幅広く知識を吸収していくことが必要です。また、JIS Q 27001 や ISO/IEC 15408 などをはじめ、NIST や CRYPTREC などの様々な情報セキュリティ機関が策定している標準化の動向を把握していくことも忘れないようにしましょう。

午後問題では、セキュリティとネットワークの相互に関連した問題の出題頻度が高いことも特徴の一つです。これらの幅広い技術を十分に習得するには、かなりの時間が必要です。試験の直前になって焦らないように、あらかじめ多くの学習時間を見込んでおき、計画的に学習していくことが大切です。また、一度、理解しても繰り返し知識をインプットしていかないと、すぐに忘れてしまいます。工夫をしながら継続的に学習していく姿勢を確立しましょう。なお、試験問題では、単なる技術的な知識から解答する問題はそれほど多くありません。問題文に記述された内容に従って解答する問題の方が多いので、問題で記述された内容を正しく理解し、その条件内で考えていくようにしましょう。そのためには、問題文に記述された内容を理解できるだけの基本的な技術力をまず身に付けておくことが必要です。また、午後試験は数十字程度の記述式で解答する小問が多く設定されます。記述内容について

は、考え方や根拠を明確に示すほか、キーワードをしっかりと押さえた上で、解答を作成するようにしましょう。

以上のように、支援士試験に合格するためには、それなりの努力が要求されます。したがって、この試験に合格することは、それだけ価値が高いということになります。学習計画をしっかりと立てて、次回の試験では必ず合格するように努力していきましょう。

以上



令和 7 年度春期

ネットワークスペシャリスト試験分析と講評

■試験全体講評

令和 7 年度春期のネットワークスペシャリスト試験（以下、NW 試験という）の応募者数は 17,297 名で、令和 6 年度春期の応募者数（16,085 名）に比べて 7.5%増加しました。試験の実施時期が半年遅れになった令和 3 年度に受験者数が大幅に減少しましたが、それ以降の受験者数は回復傾向です。

NW 試験は、情報処理技術者の高度試験の中で情報処理安全確保支援士に次いで応募者数が多い人気の試験です。それは、インターネットを中心としたネットワーク社会では、ネットワークと情報セキュリティという二つの専門分野をともに理解している技術者に対する期待が大きく、それだけ価値が高いからだと考えられます。参考までに、令和 5 年度春期から令和 7 年度春期までの応募者数などの推移を、次に示します。

年 度	応募者数	受験者数	合格者数
令和 5 年度春期	15,239 (10.2%)	10,395 (68.2%)	1,482 (14.3%)
令和 6 年度春期	16,085 (5.6%)	11,089 (68.9%)	1,704 (15.4%)
令和 7 年度春期	17,297 (7.5%)	—	—

()内は、順に対前期比増減率、受験率、合格率

午前 I（共通知識）試験は 30 問出題され、出題分野の内訳はテクノロジー分野が 17 問、マネジメント分野が 5 問、ストラテジ分野が 8 問で、これまでと同じです。問題の出題形式は、文章の正誤問題が 14 問（前回の令和 6 年度秋期は 18 問）、用語問題が 5 問（前回 5 問）、計算問題が 4 問（前回 4 問）、考察問題が 7 問（前回 3 問）で、考察問題が増え、文章問題が減っています。これらのことから、全体として少し難しいと感じた受験者が多かったと思われます。

なお、やや難しいと考えた問題は 6 問で、前回の 2 問から増えています。

午前 II（専門知識）試験の出題範囲やその出題数は、例年どおりです。令和 7 年度春期試験は、令和 6 年度春期試験に比較すると、ネットワーク分野とセキュリティ分野における新規問題の出題数が 6 問から 8 問に増加しました。難易度はほぼ例年どおりと考えられます。

午後 I 試験の出題テーマは、ルータの更改（問 1）、ネットワークの改善（問 2）、セキュア Web ゲートウェイの導入（問 3）でした。全体的に実務に即した内容で、ネットワーク技術の基礎知識に加え、実際の運用・設計・移行に関する知識が問われています。問 1 では OSPF、BGP、VRRP といった経路制御プロトコルの理解、問 2 では NAPT 処理能力や HTTP バージョンの違いによる通信特性、問 3 ではプロキシサーバとセキュア Web ゲートウェイの機能と設定に関する理解が求められました。特に近年のテレワーク環境におけるセキュリティ強化や、クラウドサービス利用時のネットワーク設計など、現代のネットワーク環境を反映した実践的な問題となっています。午後 I 問題の難易度を全体的に評価すると、標準レベルの問題といえます。

午後 II 試験の出題テーマは、社内ネットワークの IPv6 対応（問 1）と、IoT システムの設計（問 2）でした。問 1 は IPv6 に関連するアドレス、SLAAC、DNS、ルーティングを理解していることが必要です。経路情報を答える設問もありましたが、基本的な考え方は IPv4 と同じです。問 2 は、無線技術、IPsec、RESTに関する用語の理解が必要です。CoAP が 10 年ぶりに問われましたが、問題文に詳細な説明があるため特段の対策をしていなくても答えやすかったと考えられます。いずれの問題も、基礎知識の応用と、読解力があれば回答は比較的容易でした。午後 II 試験の難易度を全体的に評価すると、やや容易レベルの問題といえます。

■午前 II（専門知識）試験の講評

25 問のうち、分野別の出題数は、「技術要素」から 21 問、「コンピュータシステム」から 2 問、「開発技術」から 2 問という比率でした。この比率は例年どおりで、これからも大きな変動はないと考えられます。なお、25 問のうち、新規問題の出題数は令和 6 年度春期試験の 6 問から 8 問に増えました。難易度は前回とほぼ同程度であると思われます。

令和 5 年度春期から令和 7 年度春期までの分野別出題数の推移は、次のとおりです。

大分類	中分類	令和 5 年 春期	令和 6 年 春期	令和 7 年 春期
技術要素	ネットワーク	15	15	15
	セキュリティ	6	6	6
コンピュータ システム	コンピュータ構成要素	1	1	1
	システム構成要素	1	1	1
開発技術	システム開発技術	1	1	1
	ソフトウェア開発管理技術	1	1	1
合 計		25	25	25

(1) 技術要素

技術要素からの出題範囲は、ネットワークとセキュリティの 2 分野です。分野別の出題数は、令和 7 年度春期試験もネットワークが 15 問、セキュリティが 6 問という比率でした。次年度以降も、この出題比率がベースになっていくことには変わりないでしょう。

ネットワーク分野の 15 問は、新規問題の出題数が令和 5 年度春期試験の 4 問から 7 問に大幅に増加しています。この 7 問は、問 2 (IEEE 802.3 のベシクフレームを用いた転送フレーム長)、問 4 (10GBASE-T におけるカテゴリ 6A ケーブルの最大長)、問 6 (GET/POST メソッドを用いたリクエストメッセージ)、問 10 (経路情報の交換に UDP を用いるルーティングプロトコル)、問 11 (サーバが SYN フラグの付いたパケットを受け付ける状態)、問 12 (IPv6 における ICMPv6 の近隣探索メッセージの使われ方)、問 13 (OpenFlow コントローラーに送信するときのメッセージ) です。一方、過去問題の 8 問は、令和 5 年度春期が 3 問、令和 4 年度春期が 1 問、令和 3 年度春期が 1 問、令和元年度秋期が 1 問、平成 20 年度秋期が 1 問のほか、平成 30 年度春期 SC 試験から 1 問でした。このように NW 試験の過去問題は、各年度にかなり分散していることが特徴ですが、基本的な知識を十分に身に付けておけば、正解できる問題が多いと思われます。

セキュリティ分野の 6 問については、新規問題が、問 18 (DRDoS 攻撃に該当するもの) の 1 問で、残りの 5 問は過去問題からの出題です。その内訳は、平成 30 年度秋期 NW 試験 (直近では令和 4 年度春期 SC 試験)、令和 3 年度秋期 PM 試験、平成 24 年度秋期 NW 試験 (直近では令和 5 年度春期 SC 試験)、平成 29 年度秋期 NW 試験 (直近では令和 3 年度秋期 PM 試験)、令和 5 年度春期 NW 試験から各 1 問出題され、いずれもレベル 3 の問題といえます。このため、セキュリティ技術の動向をはじめ、SC 試験を含めた過去問

題を十分に学習していれば、問題なく正解できると考えられます。

(2) コンピュータシステム

コンピュータ構成要素からは問 22 (キャッシュメモリの書込み動作)、問 23 (MTTR の短縮化に役立つ機能) という問題でした。いずれも AP 試験の過去問からの出題で、基本的な知識があれば解ける問題でした。

(3) 開発技術

システム開発技術からは問 24 (アーキテクチャパターンのブローカー) は平成 27 年度春期 DB 試験から、問 25 (ステージング環境の説明) は令和 4 年度春期 NW 試験 (直近では令和 5 年度秋期 DB 試験) からの過去問題でした。用語の説明を問う知識問題ですが、よく使われる用語ですので難易度は低かったと思われます。

■午後 I 試験の講評

午後 I 問題は、BGP、OSPF、IPsec、VRRP、DHCP、NAPT、HTTP、PAC ファイル、ファイアウォールなど、過去にも多く出題された基本的な技術が主に取り扱われました。HTTP/3 のような比較的新しい技術の設問もありましたが、UDP の知識があれば十分対応できる内容でした。このため、問題文に記述された内容を十分に把握しながら、それぞれの設問に対し丁寧に取り組んでいけば、合格基準点をクリアすることは、それほど難しいことではないと思われます。

NW 試験の午後 I 問題は、例年、設問数が多く設定されているので、正解できる設問には確実に得点し、合格基準点をクリアする点数を積み重ねていくことが必要です。また、それぞれの問題に取り組む際には、ネットワーク及びセキュリティに関する幅広い技術知識を有していることが要求され、日ごろからしっかりと学習しておくことが必要です。

今回の試験では、ルータ更改における業務影響を最小化するための手順、NAPT テーブルの最適化、クラウド型セキュリティサービスの導入など、実務に即した内容が多く含まれており、実践的な知識が問われました。問題で記述された内容や条件を十分に考慮しながら解答を作成していくことが、合格基準点をクリアするための必要条件となります。

問 1 ルータの更改

問 1 は、建設機械販売会社のルータ更改に関する問題です。OSPF による

経路制御, IPsec VPN による拠点間接続, eBGP によるクラウドサービス接続, VRRP による冗長化など, 一般的に利用される技術要素が多く含まれています。特に OSPF のネイバー認証や eBGP の AS_PATH プリペンド設定, VRRP のプリエンプト機能など, 経路制御プロトコルの詳細な設定と動作原理の理解が問われています。また, ルータ更改の手順では, 業務影響を最小限に抑えるための通信迂回設定や, 物理的な機器交換の手順, 動作確認方法など, 実務的なネットワーク運用管理の知識が必要です。ping コマンドによる動作確認や, OSPF コストの変更による通信経路制御など, ネットワークエンジニアとして必要なスキルも問われており, 実務経験のある受験者にとっては比較的取り組みやすかった問題といえます。

問2 ネットワークの改善

中学校のネットワーク改善に関する問題です。インターネット接続帯域の不足と NAPT 処理能力の不足という二つの課題に対する調査と対策が中心テーマです。特に注目すべき点は, HTTP バージョン (HTTP/1.1, HTTP/2, HTTP/3) の違いによる NAPT 変換エントリ消費の違いに関する考察です。HTTP/1.1 では複数の TCP コネクションが必要なのに対し, HTTP/2 ではストリーム多重化によって TCP コネクション数を削減できる点, さらに HTTP/3 では UDP ベースの QUIC プロトコルを使用して TCP レイヤーの HoL ブロッキング問題を回避している点など, 最新の Web プロトコルに関する知識が問われています。また, NAPT 変換テーブルの保持時間の調整によるリソース最適化など, 実務的なネットワーク設定の知識も必要とされています。この問題は, ネットワークプロトコルの基礎知識に加え, アプリケーションレイヤーとトランスポートレイヤーの相互作用についての理解が求められる, やや難易度の高い問題といえます。

問3 セキュア Web ゲートウェイの導入

部品メーカーにおける SWG の導入に関する問題です。テレワーク勤務でのセキュリティ強化という昨今のテーマを扱っており, クラウド型セキュリティサービスの導入検討から実装までの流れを理解することが求められます。プロキシサーバからセキュア Web ゲートウェイサービスへの移行において, ネットワーク構成の変更点, FW の許可ルールの見直し, クラウドサービスへのアクセス経路の変更など, 実務的な移行計画の立案能力が問われています。特に HTTPS 通信のコンテンツ調査機能や, マルウェア駆除のための隔離環境など, セキュリティ技術に関する理解も必要です。また, 直接接続リストの

設定やリバースプロキシサーバへの変更など, ネットワークトラフィックの最適化に関する考察も含まれています。クラウドサービスの活用が進むネットワーク環境において, セキュリティとユーザビリティのバランスを考慮した設計能力が試される, 実践的な問題といえます。

■午後Ⅱ試験の講評

問1 で社内ネットワークの IPv6 対応, 問2 で IoT システムに関する問題が出題されました。問1 は IPv6 の基本的な仕組みから実装までを網羅した実践的な問題で, NDP や SLAAC, IPv6 アドレス体系, 名前解決, 経路制御など幅広い知識が問われました。特に IPv6 と IPv4 のデュアルスタック環境における設計・運用上の考慮点が重視されています。全体的な難易度は標準的ですが, IPv6 特有の技術要素を理解していることが求められる内容でした。IPv6 の普及が進む現状を反映したタイムリーな出題といえます。問2 は, IoT システム開発に関する内容で, LPWA (Low Power Wide Area) 通信技術, CoAP (Constrained Application Protocol), DTLS (Datagram TLS) などの知識が問われています。IoT 向け通信プロトコルやセキュリティ技術に関する幅広い理解が求められる内容です。

NW 試験の午後Ⅱ問題は, 問題分量が 10 ページ以上にわたるため, まず, 問題の全体像を的確に把握していくことが必要になります。そして, 合格基準点をクリアするには, 設問で問われていることをよく確認した上で, 問題の条件を加味しながら丁寧に解答を作成していくことが要求されます。ネットワークセキュリティを含むネットワーク技術全体に関する技術知識をしっかり押さえた上で, 問題の記述内容を十分に把握しながら設問に取り組んでいけば, 合格基準点をクリアすることはそれほど難しくないと考えられます。

問1 社内ネットワークの IPv6 対応

問1 は, 全国に拠点をもつ企業の IPv4 ネットワークを IPv6 対応させる計画に関する問題です。NDP の仕組み, LLA や GUA といった IPv6 アドレスの種類と割当て方法, IPv6 の名前解決 (AAAA/A レコード, EDNS), OSPFv3 による経路制御など, IPv6 の基本技術から実装までを幅広く理解していることが必要でした。特に, IPv6 と IPv4 のデュアルスタック環境における設計上の注意点や, ICMPv6 メッセージの重要性など, 実務的な知識も問われています。一部の設問は IPv6 に特化していますが, 多くの設問は問題文のヒントや IPv4 と同様の考え方で答えることができました。比較的答えやすい設問が多かったことから, 難易度はやや易しかったと想定されます。

問 2 IoT システムの設計

問 2 は、LP ガスメーターを用いた遠隔検針サービスの IoT システム開発に関する問題です。LTE-M などの LPWA 技術の特徴、CoAP プロトコルの詳細な動作、DTLS によるセキュリティ確保の仕組みなど、IoT 向け通信技術の幅広い知識が問われています。特に、CoAP のメッセージ形式や通信シーケンス、再送処理などについて詳細な動作が示されました。また、IoT デバイス特有の省電力設計や時刻同期の問題など、実際の IoT システム開発で直面する課題について、ネットワーク観点での考察も求められています。全体として、IoT 技術の基礎知識と実践的な応用力を総合的に評価する良問と言えるでしょう。問題文にヒントが多く比較的答えやすい設問が多かったことから、難易度はやや易しかったと想定されます。

■ 次回の試験に向けて

午前試験は、午前 I（共通知識）、午前 II（専門知識）の二つの試験が実施されます。午前 I 試験の出題数は 30 問、試験時間は 50 分です。この試験は、各高度試験に共通した問題ですから、出題分野もテクノロジー系（基礎理論、コンピュータシステム、技術要素、開発技術）、マネジメント系（プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント）、ストラテジ系（システム戦略、経営戦略、企業と法務）の全分野にわたります。技術レベルは 4 段階の中のレベル 3（基本情報技術者はレベル 2、応用情報技術者はレベル 3）ですから、幅広い分野に関する知識が要求されます。しかも、合格基準点は満点の 60%（18 問の正解）ですから、日ごろから情報処理技術全般に関する知識を十分に習得するとともに、関連する過去問題を多く解いておくといよいでしょう。

午前 II 試験の出題数は 25 問、試験時間は 40 分です。合格基準点は午前 I と同様に満点の 60%（15 問の正解）です。出題の重点分野は、技術要素の中のネットワークとセキュリティです。このほか、コンピュータシステムの中のコンピュータ構成要素、システム構成要素、開発技術の中のシステム開発技術、ソフトウェア開発管理技術の分野からも出題されます。令和 7 年度春期試験の出題数は、例年どおり、技術要素（ネットワークとセキュリティ）が 21 問、コンピュータシステムが 2 問、開発技術が 2 問ですから、NW 試験においては、技術要素分野の大半の問題に正解できれば、合格基準点をクリアできます。このため、午前 II 試験は、午前 I 試験のような特段の対策は必要ないと考えられます。

ネットワークとセキュリティは重点分野になっているだけではなく、最も高度であるレベル 4 から出題されます。しかし、レベル 4 に相当する問題

は、あまり多くないので、基本的な問題には確実に正解できるようにしておくことが重要です。そして、午前 II 試験は、過去問題からの出題が半数以上を占めますので、過去問題を中心とした学習を十分に実施しておけばよいでしょう。なお、午前 II 試験単独の対策は、あまり効果がありません。あくまでも、午後試験に役立つように、ネットワークとセキュリティ技術の基本知識について、十分に習得しておくことが必要です。例えば、IP ルーティングの仕組みをはじめ、DNS、電子メールの転送、各種ネットワーク機器を用いたネットワーク構成技術などに関しては幅広く、しかもその詳細技術に至るまで、十分に把握しておくようにしましょう。基礎知識をしっかりと固めながら、午後試験を見据えた技術知識の習得に努めることが重要です。

次に、午後試験についてです。午後 I 試験は 1 時間 30 分の試験時間で、3 問の中から 2 問を選択して解答します。配点は 1 問当たり 50 点です。2 問選択しますので、満点は 100 点になります。そして、合格基準点は 60 点です。また、午後 II 試験は、2 時間の試験時間で 2 問の中から 1 問を選択します。1 問 100 点満点で、合格基準点は 60 点です。

NW 試験の午後問題は、IoT ネットワークや SDN、クラウドサービスへの移行、仮想化技術、無線 LAN などの最新の技術動向のほか、OSPF や BGP などのルーティングプロトコル、及び HTTP や DNS などアプリケーション層プロトコルの詳細にわたるものなどがよく出題されます。新技術を対象にした問題の出題は、これからも続くことは変わらないと思いますが、あくまでも NW 試験の出題対象は、セキュリティを含むネットワーク技術です。このため、ネットワーク分野とセキュリティ分野に関する技術を地道に習得することを心掛けるとよいでしょう。

SDN、IoT、クラウドサービスなどの新技術を理解していくためにも、ネットワーク全般に関する基礎技術が十分に把握できていなければ、その内容を理解することはなかなかできません。このため、次のような分野については、十分に学習し、しっかりと基礎固めをしておくといよいでしょう。

① 有線 LAN と無線 LAN

CSMA/CD、MAC フレーム、CSMA/CA、CCMP、WPA2、WPA3、事前認証、PMK の共有、IEEE 802.11ac、IEEE 802.11ax、PoE など

② IP と TCP/UDP

IP アドレス、CIDR、ルーティングテーブル、アドレス変換、ICMP (ping 試験の方法など)、IP マルチキャスト、IGMPv3、PIM、DHCP、VRRP、TCP、UDP など

③ アプリケーションプロトコル

HTTP, クッキー, プロキシサーバ, 負荷分散方法, DNS の仕組み (キャッシュ, DNS サーバの信頼性対策, DNS キャッシュポイズニング, DNS リフレクタ攻撃, DNSSEC など), 電子メール配送の仕組み, 電子メールのセキュリティ (SMTP-AUTH, S/MIME, PGP, オープンリレーの問題など), 迷惑メール対策 (OP25B, IP25B, 送信ドメイン認証 (SPF, DKIM, DMARC) など), VoIP (SIP, RTP, 優先制御, 帯域制御, エコーキャンセラなど), SNMP, NTP など

④ ネットワーク機器

LAN スイッチ (スイッチングハブ) の機能・動作, 仮想スイッチ, 仮想 NIC, 物理 NIC, NIC チーミング, スパニングツリー, リンクアグリゲーション, VLAN, VXLAN, ルータの機能・動作, ルーティングプロトコルの OSPF や BGP-4 に関する詳細技術, ネットワーク仮想化, SDN (オーバーレイ方式, ホップバイホップ方式, OpenFlow など), 広域イーサネット, IP-VPN, WAN 高速化装置など

⑤ ネットワークセキュリティ

IPsec, IKEv2, TLS 1.3, QUIC, VPN, IEEE 802.1X/EAP, RADIUS, 暗号化技術, 認証技術 (デジタル署名, ワンタイムパスワード, パスワードレス認証, タイムスタンプ, メッセージ認証など), 電子証明書の検証方法, ファイアウォールの設定, IDS, IPS, WAF など

⑥ ネットワークの設計・運用

ネットワークにおけるボトルネックやバックアップの考え方, ネットワーク構成法, 必要帯域 (回線速度) の検討, トラフィック計算, データ転送量, 移行方式の検討, 故障切分け, 保守運用のノウハウ, 各種コマンドの使い方など

さらに, 午後試験は, 出題内容を一つの技術に絞ったものよりも, 複合的な観点から出題されます。このため, 無線 LAN 技術, IP と TCP/UDP に関する詳細技術, ネットワーク機器とサーバやネットワークの仮想化技術との関連, セキュリティ技術などを中心として, ネットワークシステムの設計・構築, 移行や運用管理技術など, 相互に関連した総合問題に対応できる技術力を養っていくことが必要です。しかし, 試験対策という意味では, 問題文に記述された範囲内で考えることが原則ですから, まず問題で記述された内容を正しく理解できるだけの基本的な読解力と技術力を身に付けることが重要です。これが基本技術をマスターすることの必要性にもなります。こうし

た基本技術をベースにして設問で何が問われているかを明確に把握し, 解答作成に当たっての条件などを的確に抽出した上で, そこから論理的に考えていく能力を磨いていくとよいでしょう。

午後Ⅱ試験は数十字程度の記述式で解答する設問が多くなります。記述内容については, 考え方や根拠を明確に示すほか, キーワードをしっかりと押さえた解答を作成することが大きなポイントです。さらに, ネットワークに関する応用能力を養っていくという意味では, 過去問題を数多く解いてネットワークに対する勘所をつかむことも必要です。あくまでも基本技術をしっかりと確立しないことには, 自分の力としてなかなか発揮できず, 午後問題の解答が作成できないという事態に陥ってしまいます。したがって, 前述の①から⑥までの基本技術を十分にマスターすることから始めるとよいでしょう。しかし, この基本技術の習得については, かなりの時間が必要になりますから, あらかじめ多くの学習時間を見込んでおくことが必要です。また, 一度理解しても, 繰り返し技術知識をインプットしていかなければ, すぐに忘れてしまいます。工夫をしながら継続的に学習していく姿勢を確立してください。

このように, NW 試験で合格するためには, 一つ一つの技術に対する理解を積み重ねていくことが必要ですから, 相当の努力が要求されます。したがって, この試験に合格することは, それだけ価値が高いということになります。学習計画をしっかりと立てて, 必ず合格するように努力していきましょう。

以上

令和 7 年度春期

IT ストラテジスト試験分析と講評

■全体講評

午前Ⅱは、経営戦略マネジメントで 2 問、システム戦略、システム企画、ビジネスインダストリ、セキュリティで各 1 問、目新しい問題が見受けられました。今回の新出問題数は例年と同じでした。全体的には依然として（他種別も含め）過去問からの出題が多く、標準的な難易度でした。午後Ⅰは、三者三様の企業・自治体を取り上げられましたが、事業内容が分かりやすい事例でした。難易度は前回の令和 6 年度と大きな差はありませんが、受験者に分かりやすい事業内容という点と解答として制限文字数にまとめる比較的高度な技術が必要だったことを踏まえると、標準的でした。午後Ⅱは、基幹システムの刷新方法で改修ではなく、刷新する必要性なども求められた問題や DX の企画策定といった、企画に関する論点の問題でした。両問とも、過去問の演習で準備していた方も多いかと思われます。IT ストラテジストの視座と問題文の指示を外さなければ、比較的論述しやすい内容だったと思います。

午前Ⅱは、ECRS、ODM、コンテンツマーケティング、S&OP、生産工場におけるエネルギーレビューのプロセス、リーダーシップに求められる機能、共有リソースに同時にアクセスした場合に想定外の動作をする問題などが新傾向問題として出題されました。分析技術や新しい技術の知見が要求される一方で、名称から内容を想起できそうな問題や、選択肢から必然的に正答が導ける問題もあり、知識と本番での想像力（応用力）も必要となっていました。

午後Ⅰの出題内容は、問 1 がスタートアップ企業、問 2 が地方自治体、問 3 はドラッグストアチェーンが主体の問題でした。3 問とも想定が可能な業態・事業であったため、内容は一定程度理解しやすかったのではないかと思います。多くの設問は問題文中の該当箇所が明確であるため比較的答えやすかったといえますが、一部の設問では解答に取り入れたい表現が多くあり、制限文字数に編集することが難しいと思われるものもありました。

午後Ⅱは、問 1 が基幹システムの刷新方針の策定、問 2 が DX の企画策定という出題でした。今回はオーソドックスな問題構成でシステム化計画、企画系で練習されていた受験者には比較的对応しやすかったと思われます。どちらの問題も IT ストラテジストの分析力や立案力を問う内容でした。問 1、問 2 とともに問題文の設定がかなり細かく指定されており、設問においてもそ

の細かい設定を解答に要求している点などが特徴的でした。
近年の試験の応募者数や合格率は次表のとおりです。

年度	応募者数	受験者数	合格者数
令和5年度春期	7,040	4,972	769
令和6年度春期	7,486	5,327	842
令和7年度春期	7,889	—	—

■午前Ⅱの問題講評

分野別の出題を整理すると、次のようになります。

分野	出題数	分野	出題数
システム戦略	3	ビジネスインダストリ	3
システム企画	2	企業活動	4
経営戦略マネジメント	8	法務	1
技術戦略マネジメント	1	セキュリティ	3

今回も経営戦略マネジメント、システム戦略、ビジネスインダストリ、企業活動の四つの主要分野で 7 割が出題されています。今回はシステム戦略が 1 問増え、法務が 1 問減と細かい増減が見られました。昨年までは長らく企業活動と法務で合わせて 6 問という校正でしたが今年は 5 問になりました。

システム戦略では、ロジスティック回帰分析や ECRS、決定木分析、経営戦略マネジメントでは、コンテンツマーケティング、バランススコアカード、S&OP などの意味を問う問題が出題されました。経営戦略マネジメントでは、英語の意味や既存知識から選択肢の消去法などで正答にたどり付いた方もいたのではないのでしょうか。セキュリティのレースコンディションについても初めての出題です。正答以外の選択肢はセキュリティの基本的な知識で内容が分かるものであり、正答の推定が可能だったと思われます。新傾向の問題数は例年と変わらず、過去に出題された問題や過去問からの派生問題も例年どおりという印象を受けたため、難易度は標準的だと考えます。

午前Ⅱは、試験では見たことのない新しい問題も幾つか出題されますが、過去問で培った知識や用語の意味をしっかりと理解していれば、誤った選択肢を消去して正解にたどり着ける問題も少なくありません。さらに、過去問をベースにした問題では、以前の試験で不正解だった選択肢が、今回は正解として登場するケースも考えられます。このため、過去問を徹底的に学習し、正解の選択肢はもちろん、不正解だった選択肢の内容もきちんと把握しておく

ことが、効果的な対策となります。関連する用語の知識を増やしておけば、新しいタイプの問題や過去問から少し形を変えた問題でも、得点できるチャンスが広がります。また、キャッシュフロー、投資効果の問題では、計算して解答する問題もありますので、用語だけでなく、計算方法なども練習しておくといでしょう。

■午後Ⅰ 試験講評

3 問ともに受験者が内容を想像しやすい事業や企業（自治体を含む）が題材となっていたため、問題に取り組みやすかったように思えます。また、設問に対応する問題文の記述箇所の文章量が多く、どのように解答を編集するかに手間取る設問も散見され、解答作成時に時間を要する設問が多い印象を受けました。

問 1 は、動画の解析技術の活用が題材になっていました。大学の教授とその研修室メンバーという設定でしたが、問題文も順序立てて構成されていて解答しやすい問題でした。問 2 は、地方自治体の強み・弱みを確認し、その対応がどれに当たるかを判断する必要がありました。ニーズが複数の場所に表現され、粒度も異なるため、設問要求にあった解答表現にたどりつくのに苦労した方も多かったと思います。問 3 は、業態は分かりやすい事例でしたが、ニーズと自社の対応をどう組み合わせるか、整合性の確認が必要でした。3 問の解答字数は 230～265 字と、かなり多かった前回からは大きく減少した印象を受けます。

問題で扱われる業種や業務は様々ですが、3 問とも分かりやすい事例であり、事業内容を想像しやすく、自身の経験から解答を予想してしまうことがないように注意が必要でした。

次に、各問の出題内容を見ていきます。

問 1 スタートアップ企業での IT を活用した新たなビジネス領域の開拓

情報系大学の教授とその研究室メンバーが起業した動画解析サービスを専門とするスタートアップ企業で、新たな事業展開を行うことがストーリーとなっていました。このスタートアップという設定がどういう意図なのかを気にしながら問題文を読むことになりました。

設問 1 は、Y 社が提供するサービスが生かせる市場ニーズを答える問題でした。“ネットワークカメラ市場を Y 社の新たなビジネス領域にできると考えた”という条件が付いているのでこれを意識する必要があります。設問 2 は、成長戦略に関する設問で、業務提携の目的や特定機能をもたせた背景、業務

連携によるサービスが提供できると考えた理由が問われました。スタートアップ企業であり、競合が多く、模倣性が高いと考えると、自ずと業務提携となる流れになっていました。丁寧に問題文を読んで設問に対応させる必要がありました。設問 3 は、新サービスの開発についての設問でした。機能についてのニーズや効果などが問われました。設問 3 も問題文の中から解答に必要な箇所の特定は比較的円滑にできたかと思いますが、解答としてどうまとめるかで苦労する設問も多く、難易度は標準的でした。

問 2 IT を活用した子育て支援の強化

令和 6 年度も問 2 は地方新聞社に関する問題でしたが、今回も地方の自治体がテーマになっていました。そしてこの自治体は少し変わった取組をして、日本全国の自治体が悩んでいることを解決しているという設定でした。子育てを経験したことがある受験者にとっては、設定などは理解しやすかったかとも思います。

設問 1 では、M 市の環境変化が問われています。設問文に“Angel City Plan を定めるに当たり”という前提条件が入っていることを踏まえて解答を作成する必要がありました。また、目的達成に向けた状況を把握するために定めるべき指標も問われました。これも問題文から指標として設定できそうなものが複数ありました。設問 2 は、アンケート調査に関するものでした。地元ではなく流入してきた世帯だからこそその問題点や M 市の行政機関における問題点なども問われました。制度はある程度整っているがその周知が弱い点を把握して、解答を作成する必要がありました。設問 3 は、子育て支援の実際の対応が中心でした。ある程度解答の要素となる問題文の対応箇所は発見できたかと思いますが、一部でどこまで解答に含めて良いのかに悩む設問もありました。難易度は標準的でした。

問 3 ドラッグストアにおける IT を活用した新規サービス立上げ

K 地域を中心に展開しているドラッグストアチェーンという設定でした。地域に根付いた戦略をとっていて、地元の人たちに愛されている様子も見えて取れました。冒頭部分の企業の特徴には強みなどが示される場合があるので注意しましょう。

設問 1 では、出店する戦略の狙いや業務標準化の効果などが問われました。特に、(2) はどのように解答をまとめるかに苦労された方も多かったと思います。専門知識のないスタッフでも効率的に運営できることが、どういう効果を狙っているのかについて、丁寧に問題文を読む必要がありました。設問 2

は、CX を高めることとした背景に関する問題でした。“小売売場の観点で”と設問文中に条件が付されていますのでここをしっかりと意識して解答する必要があります。設問 3 は、健康生活アプリについての機能と施策の関係や顧客ニーズ、C 社の強みなどが問われていました。午後 I でよくある問題文の構成でニーズから施策、対応内容と順に書かれているので、丁寧に関係性を読み取る必要がありました。設問 4 では、現在で問題になっていることをベースに解答します。問題文のいろいろな箇所に必要な情報が散りばめられている状況なので、ヒントの在処はなんとなく分かるが、これだけでよいのかという不安に駆られながらの解答作成になったのではないのでしょうか。問 3 の難易度も標準的でした。

■午後Ⅱ試験講評

今回は、問 1 が基幹システムの刷新方針の策定、問 2 が DX の企画策定と、IT ストラテジストの立案力を問う実務的なテーマでした。問 1 はどちらかというと情報システム戦略を意識した企画寄りの内容、問 2 は経営課題の解決を意識した DX の企画となっていました。以前はシステム化計画も出題されていましたが、近年では企画系の問題が多く出題される傾向にあり、今回の問 1 はシステム化計画のような雰囲気も醸し出していました。両問ともに似通ったテーマで準備ができていた受験者も多かったと思います。設問要求にしっかり対応して記述できたか、判断・行動に根拠を記せたかなど、基本的な採点のポイントを外さないように注意しながら書き進めれば、準備ができていた方はもちろんのこと、実務で経験したことがあれば比較的論述しやすかったのではないかと思います。

問 1 基幹システムの刷新方針の策定について

この問題文を読んで感じたことは、かなり条件が縛られているということです。内容面では 5 段落ありますが、全てが論述内容への指示と考えてもよいぐらいの内容となっていました。問題文としてここまで細かく制限をかける問題も珍しいと感じました。

設問イでは、刷新することの必要性や経営上の有効性を明らかにしなくてはなりません。また、特に重要と考えて工夫したことは、問題文の 4 段落目を意識して記述する必要がありました。さらに、この設問の中心は“どのような刷新方針を策定したか”なので、刷新の方針も忘れずに述べるように注意したいところです。

設問ウは、事業部門と行った交渉や調整、経営層にどのような説明をした

か、経営層の評価を受けて改善したことを記述します。事業部門と行った交渉や調整は 5 段落の内容をヒントに論述する必要があります。ただ、5 段落の内容は間接的に 4 段落目の内容を示唆しているので、設問イで解答した工夫点などとの連携も必要となります。また、問題文には「事業部門との交渉や調整を行い、事業部門からの協力や支持を得た上で、経営層に説明し～」とあるので、協力や支持を得たことを経営層への説明で示す必要があります。多くの例示がありますので、自身が準備してきた内容を問題文の趣旨に沿ってカスタマイズできたかがポイントになりました。難易度は標準的でした。

問 2 DX の企画策定について

DX の企画策定というテーマですが、経営課題の解決において、手段として DX を推進するという設定になっています。あくまでも経営課題の解決が主眼であることを意識したい問題でした。こちらの問題も問題文にかなり細かい指定がありますので、注意して論述する必要があります。設問アで記述すべき内容は、問題文の 1 段落目の 3 行目後半から書かれている設定を意識する必要があります。そのため、自身が準備してきた論文の前提をカスタマイズする必要があったのではないのでしょうか。しかしながら、問題文に示されている例は熟練者不足になっているので、どの会社でも起こり得る例示だったことで、対応できた受験者も多かったと思います。設問イでは、設問文自体には大した条件が書かれていませんが、対応する問題文（2 段落目周辺）には、かなり多くの条件が記されていました。特に、問題文の中央にある“次のようなことを明確にし”の 3 点はどこまで記述内容に反映すべきか悩まれた方が多かったと思います。設問ウでは、変革を阻害する要因の想定やその対応策の反映、対応策に取り入れた経営層や事業部門の意思など、設問ウにしては要求事項がとても多かったです。準備してきた受験者にとっても、設問ウを制限字数に収めるために苦労されたのではないのでしょうか。比較的準備がしやすいテーマでありながら、解答内容の指定が厳しいことを踏まえると、難易度は標準的と判断します。

■次回の試験に向けて

IT ストラテジスト試験の午前Ⅱでは、最新の IT 用語が毎年のように出題されます。そのため、日ごろから新聞やインターネット、経営情報誌などを通じて、アンテナを高く張っておくことが重要です。新しい用語については、概要をしっかりと理解しておけば対応できるでしょう。

試験で目にする用語の名称を注意深く読み解き、それがどのような意味を

もつのかを連想することや過去に出題された問題を繰り返し解くことも大切です。不正解の選択肢についても深く理解することで、まだ見ぬ新しい傾向の問題に遭遇した際にも、消去法などを活用して正解に近づける練習になります。出題範囲としては、経営戦略マネジメント、システム戦略、ビジネスインダストリ、企業活動の四つの分野からの出題が全体の約 7 割を占めています。したがって、これらの分野を中心に知識を強化していくのが効率的な対策と言えるでしょう。そして、過去問からの出題も依然として多いため、過去問演習は絶対に欠かせません。

午後Ⅰに関しては、問題文の中に解答の手がかりが隠されていることが多く、丁寧に読めば正答にたどり着けます。今回のように、状況がイメージしやすいケースでは、自分の思い込みによる誤解は避け、想像しやすいからこそ、問題文を読み込み、状況を正確に把握することが肝要です。過去問に取り組む際には、単に問題文中の該当箇所を探し出すだけでなく、設問が具体的に何を聞いているのかを理解し、どのような答えが求められているのかを常に意識することが重要です。設問の要求と問題文に散りばめられたヒントを結びつける作業を、念入りに行う必要があります。問題文からそのまま抜き出すだけでなく、解答を作成する際に適切な言葉に修正したり、言い換えたりする能力が求められます。IT ストラテジスト試験の問題文では、冒頭に戦略などが書かれ、その後現状（問題点・課題）、ニーズや背景、対応策の順で記載されている場合が多いです。この関係性を丁寧に紐付けることが重要です。

さらに、解答においては、問題文に出てくる重要なキーワードを効果的に使い、具体的な事例を挙げることで、採点者に対して自分の解答が的を射ていることを明確に伝えましょう。得点を確実に獲得するためにも、この点を日ごろの練習から意識しておくことが大切です。午後Ⅰ試験対策の基本は、問題文には必ず何らかのヒントが含まれているという前提で、それを注意深く読み解くことです。技術的な内容はもちろんのこと、戦略的な視点や事例企業の現状、強みと弱み、機会と脅威といった要素を意識しながら過去問演習に取り組むべきです。ヒントは 1 箇所だけでなく、複数の場所に分散していたり、異なる段落にまたがっていたりすることもあるため、問題文全体をじっくりと読み込み、手がかりを見逃さないようにすることが重要です。

もし、午後Ⅰ試験でなかなか点数が伸びないと感じているならば、模範解答を採点者の立場になって詳細に分析することが有効です。多くの場合、「設問の意図を正確に捉えられていない」あるいは「解答が論理的な文章として構成されていない」といった理由で失点しています。自分の解答と模範解答

を比較し、具体的にどこが異なっているのかを深く考察することで、問題文の正しい読み方や設問が求める要件がより明確になるでしょう。

午後Ⅱの論述試験では、経営層と同じ目線で物事を捉え、判断する能力です。経営に関する専門用語や戦略を策定する手法を理解し、使いこなせることが必要です。過去問に取り組む際には、問題文に示された事例を活用し、設問の要求に合致した論述ができるように訓練しましょう。設問が複数の要素を含む要求をしている場合には、記述すべき項目を分類して整理し、記述漏れがないように注意することもテクニックです。自分の主観的な意見を述べるのではなく、試験の出題者が意図する記述内容にすることが求められます。問題文に具体的な指示がある場合は、自身の考えを軽率に記述するのではなく、その指示に忠実に従うように心がけましょう。特に、設問アで問われることが多い「事業特性」は、続く設問イや設問ウにおける議論の根拠となる重要な要素です。安易にとらえることなく、設問イや設問ウで展開する内容を念頭に置きながら、それらと密接に関連する事業特性を示す必要があります。

さらに、午後Ⅱ試験対策としては、最新の IT 技術をテーマにした問題が多く出題されるため、自身の知識や経験をベースにしつつ、設問の要求に応じてどのように解答を組み立て、調整するかを練習することが効果的です。多角的な視点からの議論が求められるため、概要の説明に始まり、具体的な事例を提示し、そしてその根拠を順序立てて論述する練習が重要です。設問ウは、昨今変化が起きています。従前は経営層やマネジメント層に対する説明と評価、事業部門に対する説明と評価、そして自己評価という三つの主要なパターンというまとめに近い内容でしたが、最近では、何をしたかの設問イに近い内容を要求してくる場合があります。字数制限もあるので、いかにコンパクトにまとめるかがポイントになります。

IT ストラテジストは経営層に近いポジションといいますが、経営者そのものではなく、現場の責任者とも異なります。単なる技術の専門家ではなく、経営戦略や IT 戦略を踏まえたアプローチができる専門家としての能力が重要です。経営戦略や事業戦略を日常から意識し、物事の捉え方を磨くことが必要です。また、事業環境を SWOT 分析で評価することも大切で、強みと機会を基に戦略を策定することが一般的です。このため、過去問を使った実践的な練習が役立ちます。設問アで事業目標や経営目標を具体的に明示する練習をしておきましょう。

以上

令和 7 年度春期

システムアーキテクト試験分析と講評

■試験全体講評

システムアーキテクト試験（以下、SA 試験という）の全体講評としては、昨年と同様に今年の試験全体の難易度は“標準的よりもやや高い”と判断します。根拠としては、午前Ⅱ多肢選択式問題試験（以下、午前Ⅱ試験という）の難易度は“標準的”，午後Ⅰ記述式問題試験（以下、午後Ⅰ試験という）の難易度は，“標準的よりもやや高い”，午後Ⅱ論述式問題試験（以下、午後Ⅱ試験という）の難易度は“標準的よりもやや高い”という結果で、試験全体では“標準的よりもやや高い”試験が多かったからです。難易度について特記すべき点として、午後Ⅱ試験において、論述する事例が限定されて論述し難く、難易度が標準的よりも高い内容で出題されていることが挙げられます。ただし、午後Ⅱ試験の問題が、論述する事例に限られる論述しにくい問題と、論述しやすい問題で構成されている点は、例年どおりです。

なお、難易度については過去 2 回の試験の平均を標準的とし、“低い”，“やや低い”，“標準的”，“やや高い”，“高い”の 5 段階で評価しています。各試験の難易度を「標準的」や「標準的よりもやや高い」とした根拠は、各試験の詳細で説明します。

過去からの傾向も合わせた、今年の応募者数や過去の合格率は次のとおりです。

年度	応募者数	受験者数 (受験率)	合格者数 (合格率)
令和 5 年度	5,684	3,679(64.7%)	581(15.8%)
令和 6 年度	5,696	3,666(64.4%)	549(15.0%)
令和 7 年度	6,021	—	—

応募者数については、昨年のプラス 0.2%の微増から今年はプラス 5.7%増となりました。まず、SA 試験の受験の前に合格を目指す人が多い応用情報技術者試験について分析すると、昨年の応用情報技術者試験の応募者の増加率は 12.3%と一昨年の 2 倍ほどになっていました。このときの合格者が今年の SA 試験を受験することで受験者増につながったと推測できます。

合格率については、令和 7 年度の試験全体の難易度が“標準的よりもやや高

い”ですが、過去 5 回の合格率の実績が 15%を割ったことがありません。これを根拠に、令和 7 年度の合格率は、令和 6 年度の実績と同等である 15%前後と推測します。

■午前Ⅱ試験講評

新傾向問題数は前年と同じ 5 問、SA 試験の過去問題の出題数が 1 問減り 10 問という状況を根拠に、午前Ⅱ試験の難易度については、“標準的”と判断します。

特記すべき点は、SA 試験の過去問題からの出題が 40%あり、そのうち 70%が何らかの改訂がされているという点です。したがって、解答問題を解いて答え合わせするだけでは試験対策としては不十分であり、学習テキストにある解答解説をしっかりと学習する必要があります。

新傾向問題と SA 試験の過去問題の問題番号とタイトルを次に挙げます。

〔新傾向問題〕

- 問 3 全ての Web サイトで利用できる OSS の仕組み
- 問 7 テストセットに不具合検出する能力があるかを評価するテスト
- 問 8 プログラムのサイクロマティック複雑度
- 問 17 事象の年間発生確率が最も低くなる情報漏えい対策
- 問 21 コンテナ型仮想化におけるオーケストレーションの説明

〔SA 試験における過去問題〕

- 問 1 DFD の図形要素
- 問 2 オブジェクト指向設計における設計原則の開放・閉鎖原則
- 問 4 大量データの並列処理の 2 段階実行のプログラミングモデル
- 問 9 サブルーチンへの引数の受渡し方
- 問 10 教育効果測定カークパトリックモデルの 4 段階評価
- 問 11 ユースケース駆動開発の利点
- 問 13 要件定義で使用される図
- 問 14 ラボ契約の特徴
- 問 19 サブミッションポートを導入する目的
- 問 25 スイッチングハブと同等の機能をもち同じ階層で動作する装置

新傾向問題については、システムアーキテクトとして、今後、専門知識を習得する際の参考にするとよいでしょう。SA 試験における過去問題については、過去問題中心の演習の成果を測定する際に活用してもよいでしょう。

午前Ⅱ問題を分類し、過去 3 年間の実績を次に示します。今回から“ユーザインタフェース”が追加されて 1 問出題されました。ただし、各分野に

対する出題数の分布については大きな変化はありませんでした。

大分類	中分類	出題数		
		令和 5 年春期	令和 6 年春期	令和 7 年春期
コンピュータシステム	コンピュータ構成要素	1	1	1
	システム構成要素	2	2	2
技術要素	ユーザーインタフェース	—	—	1
	データベース	1	1	1
	ネットワーク	1	1	1
	セキュリティ	4	5	4
開発技術	システム開発技術	9	9	10
	ソフトウェア開発管理技術	3	3	1
システム戦略	システム戦略	1	0	1
	システム企画	3	3	3

注記) ユーザーインタフェースは令和 7 年春期から追加

■午後 I 試験講評

午後 I 試験の難易度は、“標準的よりもやや高い”と判断します。根拠は、問 2 と問 3 の難易度が“標準的”であるにもかかわらず、受験者が選択する率が高いと推測できる問 1 において、新傾向問題が出題され、難易度も“標準的よりもやや高い”からです。ただし、3 問全体を通して、各設問の難易度について“標準的よりも高い”はなく、例年どおり 5 から 6 ページで問題が構成されています。

問 1 は自治体における消耗品の集中購買化とそれに伴う業務システムの新規構築を題材にした問題です。問 2 は医療機関向けに医療機器の販売と導入支援サービスを提供する会社における営業活動を支援する営業支援システムの新規開発を題材にした問題です。問 3 は不動産会社における不動産売買仲介システムの再構築を題材にした問題です。

記述式問題全般で特記すべき点は、記述式問題から図がなくなり、ページ数に変化がないことで、図の分の文字数が増え、制限時間内での文章読解力が問われている点です。

新傾向問題は問 1 です。根拠は、“民間向けの購買 SaaS や購買ソフトウェアパッケージを自治体を利用する際の工夫”という目新しい内容を題材にして作問されているからです。

次に、各問題の講評を述べます。

問 1 消耗品の集中購買化とそれに伴う業務システムの新規構築

自治体における消耗品の集中購買化とそれに伴う業務システムの新規構築を題材にした問題です。問題の後半では、民間企業向けの購買関連の SaaS、ソフトウェアパッケージなど（以下、購買 PKG という）の導入を検討しています。この問題の読解において特記すべき点は、民間企業向けの購買 PKG を当該自治体を利用する際に、特徴的な使い方をするという点です。消耗品の売り手のための機能を買手に使わせるという使い方です。具体的には、購買 PKG において消耗品のサプライヤー向けの機能を購買部門に該当する総務課に利用させるという点です。この問題では、この使い方を意味が分かると高得点が期待できると考えます。以上を踏まえて、この問題を新傾向問題とし、問 1 の難易度を“標準よりもやや高い”と判断します。

解法テクニックにおいて特記すべき点は、「ただし」という接続詞に着目して問題を読み込むという点です。具体的には、「ただし」の後に、この問題を読解するために必要な、サプライヤー向けの機能をサプライヤーではなく購買を担当する総務課に利用させる旨が書いてあります。

問 2 営業活動を支援するシステム

医療機関向けに医療機器の販売と導入支援サービスを提供する会社における営業活動を支援する営業支援システムの新規開発を題材にした問題です。この問題の読解において特記すべき点は、“RPA”や“ローコード開発”を絡めた新規システム開発を題材にしている点です。推測ですが、今後、RPA やローコード開発を絡めた問題が出題されることを示唆している可能性があります。

解法テクニックにおいて特記すべき点は、「～が、～」という表現の文章が解答に絡むという点です。具体的には「商談ツール作成以来約 10 年分の商談情報を蓄積しているが」という記述は設問 4(1)と関係します。「利用者の情報は人事システムから取得しているが、所属組織と役職は取得せず」という記述は、設問 3(2)と関係します。

特に難易度が標準的より高い設問がなく、問題のページ数が 6 ページと標準的であることを根拠に問 2 の難易度を「標準的」と判断します

問 3 不動産売買仲介システムの再構築

不動産会社における不動産売買仲介システムの再構築を題材にした問題です。この問題の読解において特記すべき点は、AI による文章作成及び校正支

援サービスの適用先の業務の選定では情報セキュリティを考慮する必要があるという点です。具体的には設問 2 が該当します。AI による文章作成及び校正支援サービスの利用では、情報漏えいに留意する必要があります。大雑把ですが、“社外に公表しても問題のない情報は販売促進にかかわる情報くらい”と考えるとよいかもしれません。

解法テクニックにおいて特記すべき点は、最初の設問であっても問題文の最後まで読解しないと正解を導くことが難しいという点です。具体的には、設問 1 は問題文の最後から 3 行目にある「地域マスターを管理し、営業担当者の担当地域を登録する」という記述から正解を導きます。

特に難易度が標準的よりも高い設問がなく、問題のページ数が 6 ページと標準的であることを根拠に、問 3 の難易度を“標準的”と判断します。

■午後Ⅱ試験講評

午後Ⅱ試験の難易度については、問 1 は“標準的よりも高い”，問 2 は“標準的”です。午後Ⅱ試験全体の難易度としては“標準的よりもやや高い”と判断します。ただし、趣旨が詳細に書かれていて、趣旨に沿って論述しやすい点については例年どおりです。

新傾向問題は問 1 です。問 1 では、複数の情報システムからデータを収集して、業務目標達成のために必要な指標の提供する機能の設計について問われています。このうち、新傾向である点は、**複数の情報システムからデータを収集する事例について問われている点**、及び、**業務目標達成のために必要な指標の提供する機能の設計について問われている点**です。

次に各問題の講評を述べます。

問 1 複数の情報システムのデータを収集する必要がある指標の提供

複数の情報システムからのデータを収集して、業務目標達成のために必要な指標の提供する機能の設計について問う問題です。この問題において**特記すべき点は、論述する事例が限られてしまう点**です。具体的には、設問イにおいて、“業務目標達成のために必要な指標を提供する機能の設計”という具体的な内容について問われていること、なおかつ、指標は複数の情報システムから提供されなければならないこと、加えて、設問ウにおいて、データの内容の問題やその問題の対応について問われていることも、論述する事例が限られてしまう原因になっています。

次に**特記すべき点は、設問イとウで「どのような」と「どのように」を使い分けている点**です。論文設計の際には、この使い分けに沿って設計して、論述する必要があります。

新傾向問題であること、及び事例が限られてしまうことを根拠に、問 1 の難易度は“標準的よりも高い”と判断します。

問 2 現行システムと新システム間の差異を踏まえたデータ移行

情報システムの刷新や企業統合を背景とした、データ移行について問う問題です。この問題において**特記すべき点は、システム移行全般ではなく、システム移行のうちのデータ移行について問われている点**です。したがって、一括移行方式や段階的移行方式を新旧システムの並行稼働などを論点にしても趣旨に沿わないと評価される可能性がある点に留意して論文設計します。

次に**特記すべき点は、設問イとウにおいて、“踏まえた論述”が求められている点**です。具体的には、設問イでは現新システムの差異を踏まえた論述、設問ウでは移行計画を検討した観点を踏まえた論述です。「限られた時間内にデータ移行を確実に完了するために、データ移行における障害発生への対応時間の確保という観点を踏まえて」などと、踏まえることを明示した論述が求められると考えてください。

データ移行という記述式問題でも問われるトピックであることを根拠に、問 2 の難易度は“標準的”と判断します。

■次の試験に向けて

今年の午後Ⅱ試験の問 1 にあるような“業務目標を達成するために必要な指標を適切に設計する能力”を問う問題が、今年の午後Ⅰ試験でも問われています。具体的には、問 2 の設問 1 では“商談の見積額ごとの提案書提出率”という指標、問 3 の設問 4(1)では“成約率”という指標について問われています。したがって、午後Ⅰ・午後Ⅱ全般として、**業務目標の達成とそれにかかわる指標に留意して、試験対策の学習をする**とよいでしょう。

午前Ⅱ試験の対策では、今年は、68%の出題率で過去問題（SA 試験以外を含む）から出題されているので、出題分野などに留意しながら他の試験区分の過去問題を学習することも重要です。

午後Ⅰ試験の対策では、問題演習の際には、時間管理を徹底する必要があります。加えて、採点の際には正解例を基にした採点だけではなく、IPA の講評を確認して正答率の高い設問が不正解であった場合は、不正解の原因を分析して、正答率アップを目指すようにします。

午後Ⅱ試験の対策では、趣旨に「考えに基づいて」とあるので、あなたの“考え”などを示してから施策などを論述するように論文設計します。

ー以上ー

令和7年度春期

IT サービスマネージャ試験分析と講評

■試験全体について

IT サービスマネージャ試験（以下、SM 試験という）の全体的な難易度としては、例年と同様の「標準的」レベルと判断します。

午前Ⅱは、過去問題からの再出題は 17 問と例年と同程度であり、考察を求められる出題が 1 問だけであったことから難易度は「標準的」と判断します。再出題のうち AU, PM, AP など他科目の試験問題から 4 問がありました。→例年どおり IT サービスマネジメント分野以外の分野からも一定の割合で出題されているので、サービスマネジメント分野だけを学習するのではなく、過去問題を中心に偏りなく出題分野を学習することが望まれます。JIS Q 20000 シリーズ、システム管理基準、システム監査基準、PMBOK ガイド、JIS Q 21500 シリーズ、JIS Q 27000 シリーズ、ITIL®などの IT サービスマネージャに深く関連する標準や基準について、改訂の有無といった最新情報を含めた内容把握をすることも重要です。午後Ⅰの 3 問は、様々な分野からバランスよく出題され、特定の分野だけの知識では取組にくいと考えられます。問題の難易度は「標準的」が 3 問と判断します。午後Ⅱの 2 問は、より上位の総合的なマネジメントに焦点を当てた問題になっており、題意を反映した十分な事例の内容詳細を説明する必要があります。難易度は「標準的」と判断します。

令和 7 年度の応募者は 2,898 名で、直近 3 年間は横ばいの状況です。

年度	応募者数	受験者数（受験率）	合格者数（合格率）
令和 5 年度春期	2,886	1,936 (67.1%)	294 (15.2%)
令和 6 年度春期	2,879	2,000 (69.5%)	300 (15.0%)
令和 7 年度春期	2,898	—	—

■午前Ⅱ 試験講評

25 問中 13 問がサービスマネジメント中分類からの出題でした。このうち JIS Q 20000 と ITIL®に関する出題が 7 問もあります。この傾向は従来どおりですので、JIS Q 20000 と ITIL®の用語や考え方を十分に理解しておくことが合格のためのキーとなります。

それ以外の 12 問は、セキュリティ、プロジェクトマネジメントから 3 問ずつ、コンピュータ構成要素、データベース、ネットワーク、システム監査、経営戦略マネジメント、法務の各分野から 1 問ずつでした。幅広い分野からの出題によって、受験者が幅広い知識をもっているかを確認するような出題傾向が続いています。なお、計算問題は、前々回が 3 問、前回は 1 問、今回の試験では 1 問が出題されました。

各分野からの出題数は次のとおりです。

大分類	中分類	令和 5 年度 春期	令和 6 年度 春期	令和 7 年度 春期
コンピュータシステム	コンピュータ構成要素	1	1	1
	システム構成要素	1	1	0
技術要素	データベース	1	1	1
	ネットワーク	1	1	1
	セキュリティ	3	3	3
プロジェクトマネジメント		3	3	3
サービスマネジメント	サービスマネジメント	13	13	13
	システム監査	1	1	1
経営戦略	経営戦略マネジメント	0	0	1
企業と法務	法務	1	1	1
合 計		25	25	25

新傾向問題については、前回の 6 問より増加し 8 問でした。再出題の 17 問についても 5 問は何らかの改題が行われています。改題による再出題が増えているのは昨年から見られた傾向で、今後も継続すると思われます。

新傾向問題の一覧を示します。

- 問 02 “力量”に関する組織への要求事項
- 問 04 ITIL®4 によるサービス・カタログ管理プラクティスの目的
- 問 07 “リリース及び展開管理”に対する要求事項
- 問 11 エラープルーフ化の五つの原理の“排除”に該当するもの
- 問 12 データセンターのファシリティマネジメント
- 問 13 二酸化炭素などを消火剤に用いて酸素濃度を下げて消火する設備
- 問 16 リスクマトリックスの定義（JIS Q 0073）
- 問 20 プロセス“品質の計画”で行う活動（JIS Q 21500）

新傾向問題を中分類の分野別に見ると、サービスマネジメントに関して 6 問、セキュリティ、プロジェクトマネジメント、の各分野から 1 問ずつ出題されています。JIS Q 20000 と ITIL®4 に関して 3 問が出題されているのが特徴的です。テクノロジー分野では、新技術、各種規格類の改訂等を踏まえた幅広い知識を求める傾向があると考えられます。

今回の出題では全体としては基本的な問題が多いため、難易度は「標準的」と判断します。

■午後 I 試験講評

出題される問題数が 3 問で、そのうち 2 問を選択します。3 問のテーマは「インシデント管理プロセスの分析と改善」「高可用性システムの信頼性向上」「IT サービス継続管理」で、例年の傾向と同じく各分野からバランスよく出題されていました。特定分野に集中して学習をした受験者は苦戦したかもしれません。いずれも問題文中には電子機器メーカー、インターネット向け動画配信サービス事業者、損害保険会社のサービスについて記載されていますが、解答を導く上では特定の業界知識を必要とする問題ではなく、全体の難易度としては、「標準的」と判断します。

設問数は 3 問または 4 問で、実質上の解答項目数は 7~8 と各問を通じて同程度でした。記述問題では解答文字数として 10~30 字程度のものと、40~50 字程度を記述させるものがありました。前者は要領良く表現をまとめて解答する必要があります。後者は短くなり過ぎないように盛り込むべき内容を含める必要があります。また、いずれにしても「図・表中の字句を使って」という指定がある場合には守る必要があります。

例年同様、問題文のページ数については 3 問とも 5~6 ページで解答の記述量も同程度であったため、問題文中のキーワードを見て、知見のありそうな問題を選択した受験者も多かったと思います。どの問題も、表を含めた読解がキーとなるため、精読し、情報の見落としがないよう注意して解いていく必要がある点も、例年と同様です。

計算問題が出題されたのは問 1 だけでした。公式などを暗記しておくことが求められるものではなく、単純な割合を求める問題でした。ただし、計算すべき項目の取りこぼしや範囲の取り違いがないよう、題意をよく理解し、正しい立式を心掛ける必要があります。

問 1 インシデント管理プロセスの分析と改善

電子機器メーカーの情報システム部門で運用している販売システムのインシデント管理について、情報システム部内における運用課と開発課のエスカレーションに関する問題でした。

問題文中に説明されているインシデント対応の全体を把握したうえで、SLA を遵守するための改善活動について、インシデント対応の分析、改善策の検討について解答することが求められています。

情報システム部内の運用課（サービスデスクと運用チーム）と開発課の関係、各担当者で実施するインシデント管理及び問題管理のプロセス内容について、特定のインシデント管理の流れを追う形で問題文中に具体的に説明されていることから、インシデント管理プロセスの分析や改善の実務経験のない受験者であっても、内容を把握することができたと思われます。一方で、インシデント対応の業務フローについて複数の図表を関連づけて読み解く必要があること、解答項目が 8 項目で記述の合計字数が 180 字であることから、難易度は「標準的」と判断します。

問 2 高可用性システムの信頼性向上

インターネット上の動画配信サービスを 24 時間 365 日提供する事業者における、SRE (Site Reliability Engineering) の考え方を取り入れた開発から運用までのライフサイクルにわたってサービスの信頼性に責任をもつ組織の新設と試行運用について、開発と運用における課題、SRE チームの目標設定、試行運用と分析、について解答することが、求められています。

高可用性、スクラムによるアジャイル開発、DevOps、SRE、SLI と SLO、エラーバジェットなど、サービスマネジメントの新しい形態を表すキーワードが多く含まれていることが特徴です。ただし、これらのキーワードについては説明が全て問題文中に記載されているので、SRE に関する実務経験や知見をもたない受験者であっても、落ち着いて読み解くことで正解を導くことが可能な問題となっています。記述で求められる文字数の合計も 145 字と少な目であることから、難易度は「やや易」と判断します。

問 3 IT サービス継続管理

自動車保険を販売する損害保険会社の主要システムを運用する情報システム部における、IT サービス継続管理についての問題です。

事故対応サービスを担当する自動車保険部が利用する損害調査システムなどの事業継続計画 (BCP) と目標復旧時間 (RTO)、目標復旧時点 (RPO)、

目標復旧レベル（RLO）の改善について待機系システムの導入を含めて把握し、解答することが求められています。設問での解答項目は 7、記述の合計字数は 175 字です。

IT サービス継続管理について一通りの説明が問題文中に記載されているため、実務経験や知見のない受験者であっても用語の意味などを理解しながら解答することは可能と考えられます。ただし本問題では、バックアップに用いるクラウドサービスの説明の記載が概略にとどまっていること、緊急事態発動時の複数部門の連携についてリリース管理の知見が前提となっていると想定されること、から難易度は「やや難」と判断します。

■午後Ⅱ試験講評

例年どおり出題数は 2 問で、そのうち 1 問を選択します。どちらを選択しても、受験者が携わった IT サービスの具体的な内容を示してテーマに沿って論述していくことが必要です。

問 1 では論述対象の IT サービスの制限は少ないものの顧客とのコミュニケーションに重点が置かれ、問 2 はクラウドサービス利用又はクラウドサービスプロバイダ（CSP）との調整を含む IT サービスのマネジメントに限定されることが特徴です。いずれの問題においても、問題文中に例示されるキーワードを踏まえ、題意に沿って事例の内容詳細をしっかりと掘り下げられるかどうかの評価の分かれ目になると考えられます。単純な経緯の列举とならないように注意することが重要です。

出題数が 2 問しかないため、できるだけ様々なテーマに対応して論述できる IT サービスの事例を準備しておく必要があります。

問 1 顧客満足を向上させるための活動

IT サービスを提供する組織にとって重要な関心事である顧客満足の向上がテーマです。論述対象の IT サービスについて、顧客の期待、及び IT サービスに対する評価を把握するための活動を論述します。

顧客満足に関する活動が思い当たらない受験者もいるかもしれませんが、サービスの運用などにおいて顧客又はステークホルダーに何らかの報告を行う機会はあると思います。問題文中のサービスレベル目標、サービスカタログ、新サービス、KPI、顧客の事業環境の変化、といったキーワードを踏まえて論述を組み立てていくことは可能だと考えます。難易度は「標準的」と考えます。

問 2 クラウドサービスを活用した IT サービスのサービスマネジメント活動

クラウドサービスを活用した IT サービスのサービスマネジメント活動がテーマです。クラウドサービスを活用した経験のない受験者にとっては選択しにくい問題かもしれませんが、ただし、クラウドサービスも IT サービスマネジメントにおける外部サービスの一種であると俯瞰して捉えれば、問題文中に例示されている、障害対応、改善要求及び苦情対応、といった問題点に関しても受験者が携わった IT サービスにおいて該当する内容を見出し、論述を組み立てていくことは可能だと考えます。

「組織が提供する IT サービスの目標に照らして」と条件が付けられていますので、問題文中に言及はありませんがリソース確保の柔軟性や高可用性などクラウドサービスを活用することで得られるメリットと関連づけて言及すると良いでしょう。

論述対象の IT サービスがやや限定されるものの、論述すべき問題点は幅広く論述が可能であることから、難易度は「標準的」と判断します。

■次回の試験に向けて

午前Ⅱ、午後Ⅰ、午後Ⅱを通じて、SM 試験に合格するには JIS Q 20000 の知識がキーとなります。問われている知識はそれほど難しい内容ではありませんので、アイテックのテキストや問題集をきちんと学習していれば十分に対応可能です。特に午前Ⅱ試験は、過去問題が改題されて出題される割合や新傾向問題が増加していることから過去問題だけでなくテキストを利用した幅広い学習が効果的です。

午後Ⅰ試験の突破には、過去問や公開模試を活用して、限られた時間内で問題文を読解する訓練を、幅広いテーマに対して行うことが望まれます。

午後Ⅱの論述式試験は、問題文の趣旨に従って忠実に論述することが求められます。過去問のテーマやキーワードに対応する事例を準備しておきましょう。「IT サービスマネージャ」の視点で論述することも大切です。「サービス」及び「マネジメント」の観点を意識してください。採点者に伝わる内容を、2 時間以内に論述しなければなりません。「合格論文の書き方・事例集」の活用や添削指導を受けることをお勧めします（弊社の論文対策講座をぜひご活用ください）。

注 ① ITIL は、AXELOS Limited の登録商標です。

－以上－

令和 7 年度春期 応用情報技術者試験 (AP)

問 No	問 題 タ イ ト ル	正解	分野	大	中	小	難易度
1	含意を含む論理式	エ	テ	1	1	1	4
2	近似値を求める処理の実行回数	ア	テ	1	1	2	2
3	機械学習の過程で過学習と疑われたときの解消方法	イ	テ	1	1	3	3
4	リアルタイムシステムにおける入力に対する応答	イ	テ	1	1	5	2
5	スタックのデータ出力順序	ウ	テ	1	2	1	2
6	2 分探索木に二つの要素を順に追加した AVL 木	ウ	テ	1	2	1	3
7	関数の再帰的な定義	ウ	テ	1	2	2	2
8	CPU クロック周期と CPI による処理時間	ウ	テ	2	3	1	3
9	DMA コントローラーの説明	エ	テ	2	3	4	3
10	オブジェクトストレージの特徴	ア	テ	2	4	1	3
11	マルチプロセッサの高速化率	エ	テ	2	4	2	3
12	稼働率, MTBF, MTTR で成り立つ関係式	イ	テ	2	4	2	4
13	システムの稼働率	エ	テ	2	4	2	3
14	タスクの状態遷移	イ	テ	2	5	1	3
15	LRU 方式でページインされている番地	ウ	テ	2	5	1	3
16	OSS ライセンスの適切な組合せ	ア	テ	2	5	5	4
17	API の定義・開発を支援する機能を提供する OSS	エ	テ	2	5	5	3
18	D/A 変換の出力電圧	ウ	テ	2	6	1	2
19	PLC の記述	イ	テ	2	6	1	3
20	デジタル回路を記述して直接論理合成するために使用されるもの	イ	テ	2	6	1	3
21	間欠動作の平均電流を $1\mu\text{A}$ 以下にするための待機時間	ウ	テ	2	6	1	4
22	ユーザーインタフェースのユーザビリティ評価手法	ウ	テ	3	7	1	4
23	XML で記述された画像フォーマット	ウ	テ	3	8	1	3
24	柔軟なデータ格納を実現しているデータモデル	エ	テ	3	9	1	3
25	UML のデータモデルを関係データベース上に実装する際の解釈	ウ	テ	3	9	2	4
26	第 2 正規形から第 3 正規形に変換する手順	イ	テ	3	9	2	3
27	同じ値のコードをもつ表の行を自動的に削除する SQL 文	ア	テ	3	9	3	3
28	和両立の関係 R と S で共通集合 $R \cap S$ と等しいもの	イ	テ	3	9	3	4
29	LAN ケーブルを利用して給電を行う仕組み	イ	テ	3	10	1	2
30	MTU が設定された IPv4 でパケットに含まれるデータ量	イ	テ	3	10	3	3
31	宛先 IP アドレスを受信したとき選択されるネクストホップ	エ	テ	3	10	2	4
32	ネットワーク機器のアドレス	ウ	テ	3	10	3	3
33	用途別のウェルノウンポート番号が割り当てられているプロトコル	ア	テ	3	10	3	3
34	MIME Base64 でエンコードしたときのデータ量	ウ	テ	3	10	5	3
35	CRYPTREC 暗号リストの説明	ウ	テ	3	11	1	4
36	HTTP リクエストヘッダーから推測できる脆弱性	イ	テ	3	11	1	4
37	サイドチャネル攻撃に該当するもの	イ	テ	3	11	1	3
38	OCSP を利用する目的	ウ	テ	3	11	1	3
39	セキュリティクリアランスの事例	ウ	テ	3	11	4	3
40	SBOM 管理ツールを用いることができる情報セキュリティ対策	イ	テ	3	11	4	3

問 No	問 題 タ イ ト ル	正解	分野	大	中	小	難易度
41	cookie に Secure 属性を設定したときの動作	イ	テ	3	11	5	3
42	OS コマンドインジェクション対策	イ	テ	3	11	4	3
43	IPsec, L2TP, TLS の相対的な位置関係	ウ	テ	3	11	5	3
44	ストレッチングに該当するパスワードクラックの対策	ウ	テ	3	11	4	3
45	デザインレビューの目的	ア	テ	4	12	2	2
46	切替に伴うシステムのダウンタイムや切り戻す時間を短縮する手法	ア	テ	4	12	5	3
47	ソフトウェアの保守性を定量評価する指標	イ	テ	4	12	2	3
48	XP (Extreme Programming) のプラクティス	エ	テ	4	13	1	3
49	カオスエンジニアリングの五つの原則	ウ	テ	4	13	1	3
50	スクラムにおいてスコープを調整するイベント	イ	テ	4	13	1	2
51	プロジェクト憲章の説明	エ	マ	5	14	2	3
52	EVM 使用のプロジェクトに対する適切な評価と対策	イ	マ	5	14	7	4
53	クラッシングに該当するもの	エ	マ	5	14	6	3
54	品質管理基準に照らして行うべき活動	ウ	マ	5	14	9	4
55	サービス可用性の目標値を達成するためのサービス停止時間	イ	マ	6	15	3	3
56	IaaS と PaaS への移行で不要となるシステム運用作業	ウ	マ	6	15	4	3
57	サービスの提供やマネジメントの成功に重要な要因	ア	マ	6	15	3	3
58	システム監査基準におけるウォークスルー法の説明	ウ	マ	6	16	1	3
59	監査手続として適切なもの	ウ	マ	6	16	1	3
60	ユーザ受入れテストにおける監査のチェックポイント	ア	マ	6	16	1	3
61	DX 認定制度における認定基準に含まれている事項	イ	ス	7	17	1	3
62	ワントウワンマーケティングを実現するソリューション	ア	ス	7	17	3	2
63	クラウドサービスを実現するためのプロビジョニング	エ	ス	7	17	3	4
64	見積作成と提案書作成に掛かる月間総人件費削減効果	ウ	ス	7	18	3	4
65	企画プロセスにおけるビジネス分析の達成目標	ア	ス	7	18	1	3
66	情報システム・モデル取引・契約書における契約形態	イ	ス	7	18	3	4
67	市場成長率と市場シェアから最適な資源配分方針を求める手法	ウ	ス	8	19	1	2
68	プライスライニング戦略の説明	ア	ス	8	19	2	3
69	カーシェアビジネスのビジネスモデルキャンパス	ウ	ス	8	19	3	4
70	フリーミアムの特徴	ウ	ス	8	21	3	3
71	エッジ AI においてエッジデバイスで行われる推論処理	イ	ス	8	21	1	3
72	AI を用いたマシンビジョンの目的	エ	ス	8	21	5	3
73	コンピテンシーモデルの説明	ウ	ス	9	22	1	3
74	需要予測のもととなる時系列モデルに関する記述	エ	ス	9	22	2	4
75	類似する事実やアイデアをグルーピングしていく収束技法	ウ	ス	9	22	2	2
76	財務指標の比較	エ	ス	9	22	3	3
77	変動費の計算	ウ	ス	9	22	3	2
78	生成 AI を利用した画像生成と利用の著作権侵害について	イ	ス	9	23	1	3
79	資金決済法における暗号資産	イ	ス	9	23	3	4
80	RoHS 指令の目的	エ	ス	9	23	4	3

令和7年度春期 高度共通午前Ⅰ試験

問 No	問 題 タ イ ト ル	正解	分野	大	中	小	難易度
1	近似値を求める処理の実行回数	ア	テ	1	1	2	2
2	機械学習の過程で過学習と疑われたときの解消方法	イ	テ	1	1	3	3
3	スタックのデータ出力順序	ウ	テ	1	2	1	2
4	CPU クロック周期と CPI による処理時間	ウ	テ	2	3	1	3
5	稼働率, MTBF, MTTR で成り立つ関係式	イ	テ	2	4	2	4
6	LRU 方式でページインされている番地	ウ	テ	2	5	1	3
7	間欠動作の平均電流を 1μA 以下にするための待機時間	ウ	テ	2	6	1	4
8	XML で記述された画像フォーマット	ウ	テ	3	8	1	3
9	第2正規形から第3正規形に変換する手順	イ	テ	3	9	2	3
10	同じ値のコードをもつ表の行を自動的に削除する SQL 文	ア	テ	3	9	3	3
11	LAN ケーブルを利用して給電を行う仕組み	イ	テ	3	10	1	2
12	CRYPTREC 暗号リストの説明	ウ	テ	3	11	1	4
13	SBOM 管理ツールを用いることができる情報セキュリティ対策	イ	テ	3	11	4	3
14	OS コマンドインジェクション対策	イ	テ	3	11	4	3
15	IPsec, L2TP, TLS の相対的な位置関係	ウ	テ	3	11	5	3
16	デザインレビューの目的	ア	テ	4	12	2	2
17	スクラムにおいてスコープを調整するイベント	イ	テ	4	13	1	2
18	EVM 使用のプロジェクトに対する適切な評価と対策	イ	マ	5	14	7	4
19	クラッシングに該当するもの	エ	マ	5	14	6	3
20	サービス可用性の目標値を達成するためのサービス停止時間	イ	マ	6	15	3	3
21	システム監査基準におけるウォークスルー法の説明	ウ	マ	6	16	1	3
22	監査手続として適切なもの	ウ	マ	6	16	1	3
23	DX 認定制度における認定基準に含まれている事項	イ	ス	7	17	1	3
24	クラウドサービスを実現するためのプロビジョニング	エ	ス	7	17	3	4
25	情報システム・モデル取引・契約書における契約形態	イ	ス	7	18	3	4
26	市場成長率と市場シェアから最適な資源配分方針を求める手法	ウ	ス	8	19	1	2
27	エッジ AI においてエッジデバイスで行われる推論処理	イ	ス	8	21	1	3
28	AI を用いたマシンビジョンの目的	エ	ス	8	21	5	3
29	変動費の計算	ウ	ス	9	22	3	2
30	生成 AI を利用した画像生成と利用の著作権侵害について	イ	ス	9	23	1	3

令和7年度春期 情報処理安全確保支援士午前Ⅱ試験 (SC)

問 No	問 題 タ イ ト ル	正解	分野	大	中	小	難易度
1	DRDoS 攻撃に該当するもの	ウ	テ	3	11	1	3
2	SAML 認証の特徴	ア	テ	3	11	1	3
3	SHA-512/256 の説明	ウ	テ	3	11	1	4
4	DNS に対するカミンスキー攻撃への対策	エ	テ	3	11	4	3
5	クリプトジャッキングに該当するもの	ア	テ	3	11	1	3
6	デジタル証明書に関する記述	イ	テ	3	11	1	3
7	マルウェア Mirai の動作	エ	テ	3	11	5	3
8	サイバー攻撃におけるコネクトバックの説明	ウ	テ	3	11	1	3
9	公開鍵基盤における CPS に該当するもの	ウ	テ	3	11	1	3
10	JIS Q 27000:2019 の用語	エ	テ	3	11	2	3
11	政府情報システムのためのセキュリティ評価制度 (ISMAP)	ウ	テ	3	11	2	3
12	NIST の CSF2.0 のコアにある機能	ウ	テ	3	11	2	4
13	IoC (Indicator of Compromise) に該当するもの	ウ	テ	3	11	3	3
14	サイドチャネル攻撃の手法であるタイミング攻撃の対策	ア	テ	3	11	4	3
15	電源を切る前に全ての証拠保全を行う際に最も優先して保全すべきもの	ア	テ	3	11	4	3
16	OAuth 2.0 に関する記述	イ	テ	3	11	5	3
17	OP25B を導入する目的	イ	テ	3	11	5	3
18	コリジョンの伝搬とブロードキャストフレームの中継	ア	テ	3	10	2	3
19	スパニングツリープロトコルの機能	エ	テ	3	10	2	3
20	GET/POST メソッドを用いたリクエストメッセージ	イ	テ	3	10	5	3
21	SQL 文を実行して得られる結果	ウ	テ	3	9	3	3
22	ソースコードのソース品質を向上させる OSS のツール	エ	テ	4	12	3	3
23	スクラムにおける KPT の三つの視点	イ	テ	4	13	1	4
24	サービス可用性の計算	ウ	マ	6	15	2	3
25	金融庁「内部統制・監査の実施基準」の IT の統制目標	エ	マ	6	16	2	3

令和7年度春期 ネットワークスペシャリスト午前Ⅱ試験（NW）

問 No	問 題 タ イ ト ル	正解	分野	大	中	小	難易度
1	呼量の計算	エ	テ	3	10	1	3
2	IEEE802.3 のベーシックフレームを用いた転送フレーム長	イ	テ	3	10	2	3
3	誤りが発生する電文の個数	エ	テ	3	10	2	3
4	10GBASE-T におけるカテゴリ 6A ケーブルの最大長	イ	テ	3	10	1	3
5	CoAP の特徴	エ	テ	3	10	5	3
6	GET/POST メソッドを用いたリクエストメッセージ	イ	テ	3	10	5	3
7	ICMP を識別するためのヘッダー情報	ア	テ	3	10	3	4
8	サブネットアドレスの割り当て	ウ	テ	3	10	3	3
9	PPP に関する記述	エ	テ	3	10	3	4
10	経路情報の交換に UDP を用いるルーティングプロトコル	エ	テ	3	10	3	3
11	サーバが SYN フラグの付いたパケットを受け付ける状態	ア	テ	3	10	3	3
12	IPv6 における ICMPv6 の近隣探索メッセージの使われ方	ア	テ	3	10	3	4
13	OpenFlow コントローラーに送信するときのメッセージ	ウ	テ	3	10	4	3
14	FTP でサーバ側のデータ転送ポートを要求するコマンド	ウ	テ	3	10	5	3
15	無線 LAN の周波数帯の組合せ	ウ	テ	3	10	1	3
16	TLS に関する記述	ウ	テ	3	11	5	3
17	テンベスト攻撃の説明とその対策	イ	テ	3	11	4	3
18	DRDoS 攻撃に該当するもの	ウ	テ	3	11	1	3
19	無線 LAN の暗号化通信の規格に関する記述	エ	テ	3	11	4	3
20	DNSSEC の機能	イ	テ	3	11	5	3
21	OP25B の例	イ	テ	3	11	4	3
22	キャッシュメモリの書込み動作	イ	テ	2	3	2	3
23	MTTR の短縮化に役立つ機能	ア	テ	2	4	2	2
24	アーキテクチャパターンのブローカー	エ	テ	4	12	2	4
25	ステージング環境の説明	エ	テ	4	13	3	3

令和7年度春期 IT ストラテジスト午前Ⅱ試験（ST）

問 No	問 題 タ イ ト ル	正解	分野	大	中	小	難易度
1	発症確率を推定するモデルを構築するための分析手法	エ	ス	7	17	4	3
2	業務改善をするときのフレームワークである ECRS	ウ	ス	7	17	2	3
3	顧客データのセグメント予測に活用する分析手法	エ	ス	7	17	4	3
4	投資において DCF 法で算定した金銭的価値の計算	ア	ス	7	18	1	4
5	ODM における委託者と受託者の役割分担	エ	ス	7	18	3	3
6	バリューチェーンの説明	ア	ス	8	19	1	2
7	コンテンツマーケティングの説明	ウ	ス	8	19	2	3
8	マーケティング戦略の策定プロセス	イ	ス	8	19	2	3
9	需要の価格弾力性に関する説明	エ	ス	8	19	2	3
10	四つの製品タイプにおける消費者の行動	ウ	ス	8	19	2	4
11	バランススコアカードによる戦略マップの四つの視点における説明	エ	ス	8	19	3	3
12	マルチサイドプラットフォームのビジネスモデルの説明	ア	ス	8	19	3	4
13	SCM から発展した概念の S&OP の説明	ウ	ス	8	19	4	4
14	技術経営における“魔の川”の説明	イ	ス	8	20	1	3
15	生産工場におけるエネルギーレビューのプロセス	ア	ス	8	21	5	4
16	ティアダウンの説明	ウ	ス	8	21	5	4
17	サイバーフィジカルシステムの説明	ウ	ス	8	21	1	3
18	変革を生み出すリーダーシップに求められる機能	ウ	ス	9	22	1	3
19	キャッシュフロー計算書における投資活動によるキャッシュフロー	エ	ス	9	22	3	3
20	債務超過に関する説明	ア	ス	9	22	3	3
21	損益計算資料における営業利益の計算	イ	ス	9	22	3	2
22	フェアユースの説明	エ	ス	9	23	1	3
23	共有リソースに同時にアクセスした場合に想定外の動作をする問題	エ	テ	3	11	1	3
24	ベンダーチームの機能とサービス対象の組み	ウ	テ	3	11	2	4
25	デジタルフォレンジックス	エ	テ	3	11	4	3

令和7年度春期 システムアーキテクト午前Ⅱ試験（SA）

問 No	問 題 タ イ ト ル	正解	分野	大	中	小	難易度
1	DFDの図形要素	エ	テ	4	12	3	2
2	オブジェクト指向設計における設計原則の開放・閉鎖原則	エ	テ	4	12	4	4
3	全ての Web サイトで利用できる OSS の仕組み	イ	テ	4	12	2	3
4	大量データの並列処理の2段階実行のプログラミングモデル	ウ	テ	4	12	4	3
5	デザインパターンの Observer パターンで実現できること	ア	テ	4	12	4	4
6	ソースプログラムを分析するテストツール	ア	テ	4	12	3	3
7	テストセットに不具合検出する能力があるかを評価するテスト	ウ	テ	4	12	3	4
8	プログラムのサイクロマティック複雑度	イ	テ	4	12	3	3
9	サブルーチンへの引数の受渡し方	ア	テ	4	12	4	3
10	教育効果測定カークパトリックモデルの4段階評価	エ	テ	4	12	9	4
11	ユースケース駆動開発の利点	エ	テ	4	13	1	4
12	インタビュー技法の長所と短所	エ	ス	7	18	2	3
13	要件定義で使用される図	エ	ス	7	18	2	2
14	ラボ契約の特徴	イ	ス	7	18	3	4
15	協調フィルタリングを用いたもの	ア	ス	7	17	1	4
16	オープンリゾルバを悪用した攻撃	ウ	テ	3	11	1	3
17	事象の年間発生確率が最も低くなる情報漏えい対策	ウ	テ	3	11	2	4
18	暗号化や認証機能をもつ遠隔操作プロトコル	エ	テ	3	11	5	3
19	サブミッションポートを導入する目的	エ	テ	3	11	5	4
20	キャッシュメモリにおけるセットアソシアティブ方式の説明	ウ	テ	2	3	2	3
21	コンテナ型仮想化におけるオーケストレーションの説明	エ	テ	2	4	1	3
22	キャッシュサーバを利用した平均検索応答時間	ウ	テ	2	4	2	3
23	データの対象物が連想できるコード	ウ	テ	3	7	2	2
24	トランザクションの隔離性水準を高めたときの傾向	エ	テ	3	9	4	4
25	スイッチングハブと同等の機能をもつ同じ階層で動作する装置	イ	テ	3	10	2	2

令和7年度春期 IT サービスマネージャ午前Ⅱ試験（SM）

問 No	問 題 タ イ ト ル	正解	分野	大	中	小	難易度
1	サービスのライフサイクルに関する他の関係者	イ	マ	6	15	1	4
2	“力量”に関する組織への要求事項	ウ	マ	6	15	1	4
3	JIS Q 20000-2:2013 による SLA の作成指針	ウ	マ	6	15	1	3
4	ITIL [®] 4 によるサービス・カタログ管理プラクティスの目的	エ	マ	6	15	1	4
5	組織がリスク及び機会を決定する目的	イ	マ	6	15	1	4
6	切替え移行作業の最短所要時間	ウ	マ	6	15	2	3
7	“リリース及び展開管理”に対する要求事項	ウ	マ	6	15	2	3
8	目標復旧時間（RTO）を24時間に定めているもの	エ	マ	6	15	2	3
9	パフォーマンス評価のマネジメントレビューの要求事項	イ	マ	6	15	3	4
10	ウォームスタンバイの説明	エ	マ	6	15	4	3
11	エラーブルーフ化の五つの原理の“排除”に該当するもの	イ	マ	6	15	4	4
12	データセンターのファシリティマネジメント	イ	マ	6	15	5	3
13	二酸化炭素などを消火剤に用いて酸素濃度を下げて消火する設備	ウ	マ	6	15	5	3
14	金融庁「内部統制・監査の実施基準」のITの統制目標	エ	マ	6	16	2	3
15	シングルサインオンの実装方式	エ	テ	3	11	1	3
16	リスクマトリックスの定義（JIS Q 0073）	ア	テ	3	11	2	3
17	JIS Q 22301:2020 が要求事項を規定している対象	ウ	テ	3	11	2	3
18	プロジェクトスコープのクリープと呼ばれるもの	ア	マ	5	14	4	4
19	計画変更によるスケジュール短縮日数	ア	マ	5	14	6	3
20	プロセス“品質の計画”で行う活動（JIS Q 21500）	エ	マ	5	14	1	4
21	メモリインタリーブの説明	エ	テ	2	3	2	3
22	ブランドリポジショニング戦略の説明	イ	ス	8	19	2	3
23	データベースの同時更新で論理的な矛盾を生じさせない技法	エ	テ	3	9	4	2
24	複数のポートを一つの論理ポートとして扱う技術	エ	テ	3	10	2	3
25	36 協定と呼ばれる労使協定に関する制度	ウ	ス	9	23	3	3